会長のページ　宮崎県地域総合医育成サテライトセンターの開設 ……稲倉　正孝　3
日州医談　「新・自殺総合対策大綱」について ……吉田　建世　4
寄　　稿　宮崎市郡医師会病院心臓病センターとモービルCCU ……川名　隆司　6
随　　筆　院内でリラクゼーション ……谷口　二郎　8
　　医療とコミュニケーション ……森　　憲正　10
エコー・リレー(446) ……濵砂　亮一，大塚康二朗　12
宮崎大学医学部だより(臨床神経科学講座精神医学分野) ……林　　要人　16
専門分科医会だより(内科医会) ……栗林　忠信　17
メディアの目　想定 ……原口　俊幸　18
診療メモ　眼内レンズUPDATE ……宮田　和典　56

ベストセラー …… 11
あなたできますか？(平成23年度医師国家試験問題より) …… 13
宮崎県感染症発生動向 …… 14
各種委員会(予防接種委員会，医学会誌編集委員会，健康スポーツ医学委員会) …… 19
第13回宮崎県医師会医家芸術展 …… 21
平成24年度医師会立看護学校担当理事連絡協議会 …… 22
日医インターネットニュースから …… 24
医師国保組合だより …… 26
薬事情報センターだより(305)　新薬紹介(その58) …… 28
理 事 会 日 誌 …… 32
県 医 の 動 き …… 36
会員の異動・変更報告 …… 37
ドクターバンク情報 …… 39
行　事　予　定 …… 43
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会 …… 45
宮大医学部学生のページ(第８回清花祭) …… 58
あ　と　が　き …… 62

お知らせ　クールビズについて …… 5
　　「新春随想」原稿募集 …… 9
　　日州医事投稿についてのお知らせ …… 29
　　郡市医師会への送付文書 …… 60
ご 案 内　第112回九州医師会総会・医学会 …… 30

医師の心得

1．私たちは、皆さまの
　健康状態をよくお聞きします。

2．私たちは、皆さまに
　最善の医療を提供できるよう心がけます。

3．私たちは、皆さまに
　医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。

4．私たちは、皆さまの
　「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。

5．私たちは、皆さまの
　健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人　宮崎県医師会

（平成14年3月12日制定）

〔表紙作品：ステンドグラス〕

エンゼルトランペット

はじめて，この花を目にしたときの感動を油絵で描いたのは，もう30年以上も前のことです。医局派遣で住んでいた指宿では，あちこちで咲いていました。名前のようにまるでトランペットのような花が，枝もたわわにぶら下がっていたものです。その絵をもとにいま夢中になっているステンドグラスで制作してみました。

延岡市　長沼恭子（ながぬまきょうこ）

会長のページ

宮崎県地域総合医育成サテライトセンターの開設

稲倉正孝（いなくらまさたか）

地域総合医育成サテライトセンターの設置に関する協定が，平成 24年９月 28日に県庁で調印された。協定書には迫田隅男宮崎大学医学部長，渡邊亮一県病院局長，土持正弘県福祉保健部長が，宮崎県地域医療支援機構代表者等の見守る中で署名捺印した。地域医療に携わる総合医を育成するサテライトセンターが，平成 25年４月に県立日南病院内に設置されることになった。

へき地病院・診療所に勤務する医師をはじめ，県内の地域医療に従事する医師を育成し，宮崎県地域医療支援機構の調整のもとに県内の医療機関に配置することが目的である。地域医療学講座・救急部が中心となって，大学の各診療科及び県立病院と協力して地域医療を担う医師を養成する動きが広がっている。

宮崎大学医学部地域医療学講座がめざすものは，救急医療に十分対応でき，しかも専門性を兼ね備えた総合医の育成である。救急医療は臨床医学の基礎であり，地域医療の基盤である。しかし，一方では専門医は時代の流れであり，専門医による治療は患者の希望でもある。一つの専門分野を究めることは，患者を幅広く診察し，的を絞った効率的な治療を行うために大切なことで，医学的な思考能力を高めるためにも重要なことである。臓器別専門医療を極めることも大切なことであるが，専門性を高めれば高める程，診療の守備範囲が狭くなる傾向がある。結果的に，多くの医師が必要となり，医師不足の大きな原因の一つとなっている。

世界に先駆けて高齢化社会に突入した日本では，特に地方においては，多くの高齢者に効率的に的確な医療を提供することが求められている。一人で幾つかの病気を持つ高齢者の診療にあたっては，各々の症状・病態に関連性があることが多く，総合的な診療・治療が必要なことは稀ではない。このような考え方は我々の主張する「守備範囲の広い医師の養成」の概念と一致する。地域総合医育成サテライトセンターの充実と発展を期待している。

（平成 24年 10月１日）

日州医談

「新・自殺総合対策大綱」について

常任理事　吉田建世（よしだけんせい）

我が国の自殺者数は，警察統計で平成10年から平成23年まで14年間３万人を超え続けている。宮崎県においても，平成19年に自殺死亡率（人口10万人あたり）が全国ワースト２位になり，その後の県の対策で減少傾向であったのが，平成23年に再増加しワースト４位になった。国において平成18年10月に自殺対策基本法が施行され，続いて平成19年６月に自殺総合対策大綱が策定され，自殺死亡率を20%減少させる目標が立てられた。しかし，まだ高い水準は続いており，中でも若年層の増加傾向が目立ち，平成23年の学生・生徒の自殺数が１千人を超えた。特に最近はいじめによる自殺が問題になっている。そのような状況の中，自殺総合対策大綱が５年ぶりに見直され，平成24年８月28日に閣議決定された。

（「自殺」より「自死」が推奨されるが，ここでは大綱の通りに記載する）

新大綱の全体像は以下の通りである。

第１．はじめに

＜誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す＞

国，地方公共団体，関係団体，民間団体等が緊密な連携を図りつつ，国を挙げて自殺対策に取り組み，一人ひとりがかけがえのない個人として尊重され，「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指すものとする。

自殺総合対策の現状と課題：地域レベルの実践的な取組みを中心とする自殺対策への転換。

地域の実情に応じて，対策の有効性や効率性，優先順位などを検討し，国民一人ひとりに身近な地域において，それぞれの実情に応じたきめ細かな対策を講ずることが必要。

自殺総合対策における基本認識：

＜自殺は，その多くが追い込まれた末の死＞

＜自殺は，その多くが防ぐことのできる社会的な問題＞

＜自殺を考えている人は何らかのサインを発していることが多い＞

第２．自殺総合対策の基本的考え方

１）社会的要因も踏まえ総合的に取り組む

２）国民一人ひとりが自殺予防の主役となるよう取り組む

３）段階ごと，対象ごとの対策を効果的に組み合わせる

４）関係者の連携による包括的な生きる支援を強化する

５）自殺の実態に即した施策を推進する

６）施策の検証・評価を行いながら，中長期的視点に立って，継続的に進める

７）政策対象となる集団毎の実態を踏まえた対策を推進する

８）国，地方公共団体，関係団体，民間団体，企業及び国民の役割を明確化し，その連携・協働を推進する

第３．当面の重点施策

１）自殺の実態を明らかにする

２）国民一人ひとりの気づきと見守りを促す

３）早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する
４）心の健康づくりを進める
５）適切な精神科医療を受けられるようにする
６）社会的な取組で自殺を防ぐ
７）自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ
８）遺された人への支援を充実する
９）民間団体との連携を強化する

第４．自殺対策の数値目標

平成28年までに，自殺死亡率を17年と比べて20%以上減少させることを目標とする。

第５．推進体制等

１）国における推進体制
２）地域における連携・協力の確保
３）施策の評価及び管理
４）大綱の見直し

今回の見直しのポイントとしては，自殺予防を社会全体の責務と捉えた。そして自殺対策を，地域レベルの実践的な取組みを中心とするものに転換した。地域の実態を把握し，地域に合った実行計画を立て，実践し，評価をし，それをまたフィードバックしていく。国，地方公共団体，民間等の関係機関の役割を明確化し，連携の強化を図ることにした。

重点施策として，（１）若年層への支援（いじめ対策），（２）早期対応する人材（含ゲートキーパー）の養成，（３）職場・地域における対策の推進，（４）多重債務者，失業者，生活困窮者などの社会的支援の強化，（５）自殺未遂者への支援強化，（６）遺族への支援，（７）大規模災害の被災者の心のケアや生活再建推進，（８）インターネットを活用した支援情報提供などを挙げた。

増加傾向にある若年層の支援を強化するが，中でもいじめ対策を強化し，いじめへの学校・教育委員会や家庭の迅速な対応を挙げ，また児童や生徒の自殺の原因にいじめの可能性がある場合は，学校または教育委員会以外の第三者が調査する方針を盛り込んだ。自殺未遂者への支援策としては，救急医療センターへの精神科医の配置，退院後も継続的に相談などの精神面のケアを受けられる体制の整備などを挙げている。その他，報道機関に対するＷＨＯの手引きの周知を図ったりもしている。

依然として自死者数が減少しない現状にあって，今回の見直しが，社会全体の変革を提言しており，本当に実効力があるものとなるためには，国がその役割を果たし，地域での連携や施策の推進を支援することが重要であると考える。その基盤があってからこそ，地域ごとの活動が充実していくものと考える。地域で働く者として，この大綱の見直しにより，今後より良い成果が残せることを望んでいるところである。

お知らせ

クールビズについて

県医師会では，地球温暖化防止に向け，平成24年５月１日より平成24年10月31日までの間，県医師会館の冷房設定温度を上げ，常識的な判断による夏の軽装（クールビズ）の実践に取組みます。

会議等の場合でも軽装（ノーネクタイ・半袖等）で結構です。地球温暖化防止のため，ご理解とご協力をお願いいたします。

寄　稿

宮崎市郡医師会病院心臓病センターとモービルＣＣＵ

宮崎市郡医師会病院　病院長　川名隆司（かわな　たかし）

モービルＣＣＵ（mobile coronary care unit）とは，循環器内科専門医と看護師が同乗し，主に急性心筋梗塞のような重症心疾患の患者を迎えに行き，そして病院まで搬送する“冠疾患（心臓病）治療用救急車”のことで，搬送中にも速やかな治療・処置が可能となります。

平成22年度の国の補正予算の中から「都道府県単位の高度専門医療，救急医療の整備・拡充等」を目的に割り当てられた2,100億円は，地域医療再生臨時特例交付金と呼ばれ，各都道府県に15億円ずつ配分されました。宮崎市郡医師会は，県医師会の後押しを受けながら「医師会病院心臓病センターの整備，広域救急医療体制（モービルＣＣＵ導入等）の整備」を事業案として県に上程し，採択に至りました。

そのモービルＣＣＵが，８月23日に納車されました（図１）。トヨタのコースター（排気量4,000cc，ディーゼル車）をベースに救急車仕様に改造され，内部には，人工呼吸器，パルスオキシメーター，携帯酸素，インハレーター，患者監視モニター，除細動器，携帯型超音波診断装置，電動吸引器，自動心臓マッサージ器，血液ガス分

心臓病センター

当院に心臓病センターが開設されて，15年が経過致しました。その間，多くの先生のご支援を得て施設としての充実を図ることができましたことを，大変感謝申し上げます。

【心臓病センター概要】

現在，当心臓病センターには循環器内科12名，心臓血管外科３名，計15名の医師が在籍しております。検査部門として，トレッドミルによる運動負荷検査（２台），ホルター心電図検査，心臓ならびに血管エコー検査（日本超音波医学会認定超音波検査士８名在籍），冠動脈ＣＴ検査，心臓核医学検査，大血管，冠動脈造影検査，電気生理学的検査（心臓・血管造影室３室）など，ほぼすべての循環器検査が行えるまでに至りました。

治療部門として，心臓病専用の集中治療室（12床；専属の看護師）を備え，心筋梗塞，狭心症に対する冠動脈形成術（インターベンション），閉塞性動脈硬化症に対する末梢血管拡張術（インターベンション），不整脈に対するカテーテルアブレーション，洞不全症候群や完全房室ブロックに対する永久ペースメーカー植え込み術，心室頻拍などに対する埋め込み型除細動器植え込み術，低心機能に対する心臓再同期療法（両室ペーシング），肺塞栓，深部静脈血栓症に対する静脈フィルター留置術，閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術，狭心症，心臓弁膜症，大動脈解離，大動脈瘤に対する心臓・血管手術，これらの治療を24時間体制で行うことができるまでになりました。

さらに，心臓病患者の社会復帰をより安全に安心して行っていけるように，300平米の心臓リハビリテーション施設（心臓リハビリテーション指導士５名在籍）も７年前に開設いたしました。

また，この10月よりモービルＣＣＵを導入することとなり，より迅速な循環器診療を行うことができると考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（宮崎市郡医師会病院心臓病センター長　柴田剛徳）

析装置，シリンジポンプ，大動脈バルーンポンプ，救急医薬品等を搭載しています(図２)。９月末まで，当院の循環器内科医，看護師，事務部門，運転手が乗務訓練を行い，10月１日から24時間365日の運行を開始しました。

当院の心臓病センターは，平成23年，冠動脈インターベンション治療914例，ペースメーカー・両心室ペーシング・植え込み型除細動器手術115例，カテーテルアブレーション158例，末梢血管インターベンション132例を経験し，県内の急性心筋梗塞に対する経皮的冠動脈形成術の約40%は，当院で実施しています。また，平成23年の心疾患の受け入れに関しては，宮崎東諸県医療圏内が73%であり，残りの27%は他の医療圏からの受診でした(表１)。今後，必要なケースにおいては，モービルCCUと要請先の医療機関からの救急車が，所定のドッキングポイント（高速道路ならインターチェンジやサービスエリア，一般道なら公共施設等)で落ち合い，患者の受け渡しを行って当院へ搬送します。

心筋梗塞は，本県の死因の第２位であり，県医療計画の中で，５疾患５事業・在宅医療の一つとして，救急搬送体制の充実が求められていました。今回導入されたモービルCCUは，宮崎大学医学部附属病院のドクターヘリと共に，より多くの症例の迅速な搬送と早期治療が可能となり，重症心疾患の予後向上に大いに寄与するものと期待されます。

表1　県内２次医療圏からの心疾患患者の受入れ状況(平成23年)

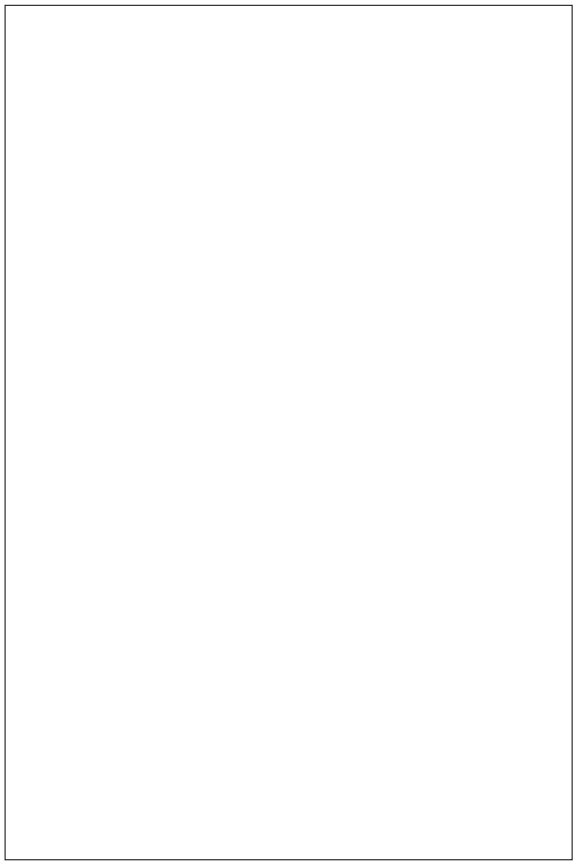


図１　心臓病センタースタッフとモービルCCU

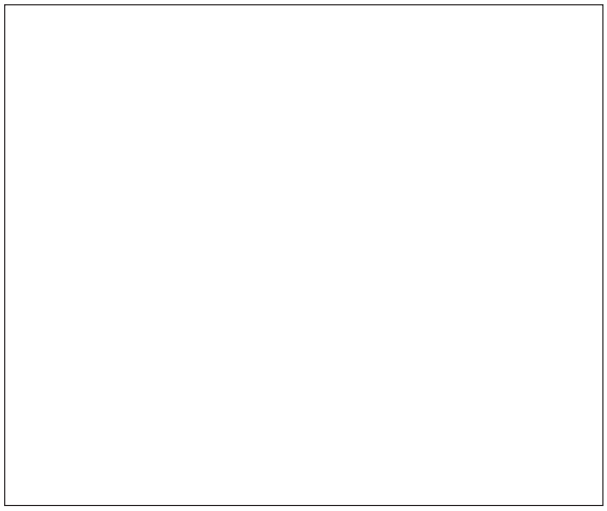


図２　モービルCCU 車内及び搭載医療機器

随　筆

院内でリラクゼーション

宮崎市　たにぐちレディースクリニック　谷口（たにぐち）二郎（じろう）

2年前，開業するにあたって一つ決めていた事がある。それは院内にBGMの音楽を流すと言う事である。当時はまだBGMというものは一般的ではなかった。院内に心地よい音楽が流れるというだけで，患者さんに少しでもくつろいでもらおうと思ったのだ。そこで，各病室，待合，廊下，外来，トイレにまでスピーカーを設置した。

音楽が人に及ぼす影響はより科学的に分析されている。例えば，ストレスを感じると「コルチゾル」というストレスホルモンが分泌される事が分かっているが，適切な音楽を聴く事でこの「コルチゾル」の値が下がり，ストレスレベルが軽減される事が確認されている。また音楽鑑賞によって大脳辺縁系が刺激され，脳内に「βエンドルフィン」や「ドーパミン」が分泌される。これらは人を幸せな気持ちにする作用をもつ神経伝達物質と言われている。

さて，具体的にどのようにして音楽を流すのか，最初はカセットレコーダーをアンプに繋ぎ流そうと考えた。ところが，テープではせいぜい90分しか連続して音楽は流せない。その度にカセットを入れ替えたら，手間がかかる。そこで当時ようやく出始めていた有線というのを利用する事にした。チャンネルはたったの12チャンネルしかない。クラシック，ジャズ，ポップス，歌謡曲，鳥のさえずりなどだ。

とりあえず，朝7時のモーニングコールは鳥のさえずり，何気なく朝ですよという事を患者さんに知らせる目的があった。9時になり仕事が始まると，今度は小鳥の鳴き声入りのBGM。音楽の中に何気ない心が安らぐ静かな音楽が入っている。午後になると優しい音楽の入ったBGM。夕方からはオルゴール。そして夜9時にはOFFにするようにした。

音楽がかかっているか，かかっていないかでは病院の雰囲気が全く違う。BGMがかかっているだけで，患者さんはリラックスしている。入院中の患者さんもこのBGMを楽しみにされている人が多く，回診で部屋に入ると授乳しながらBGMを聴いている人も多い。

それから暫くすると有線のチャンネルも増え330チャンネルになった。その内容を見てみると色々面白いのがある。例えば「アリバイの音」というのがあり，そのチャンネルに合わせるとパチンコ屋の中の騒音，チンチンジャラジャラという音が流れ，その前で電話をするとパチンコ屋に居たというアリバイを作れるというものだ。

その他にも不眠症の人の為に「羊の数え唄」というのがある。それは「羊が1匹，羊が2匹，羊が3匹，羊が4匹…」と延々羊を数えるものである。「本日の御来店ありがとうございました。又のお越しをお待ちしております。お帰りの際は，充分お気をつけてお帰り下さいませ」という閉店用のもある。ありとあらゆるチャンネルがあるのだ。

チャンネルが増えると，今度はパーソナルで自分だけでも聞きたくなり，外来の診察室の横に置いた。仕事中は私の好きなフュージョンの曲やボサノバをかけている。そうする事により私の方がリラックスして仕事が出来る。

電話の待受け音楽にも有線を入れてある。普

通は電話を取り次ぐ時はエリーゼの為にのオルゴール曲がかかったりするのであるが，その代わりに有線をと思ったのだ。これは電話をかけてくる人には好評で，待っている間もイライラしないで待って下さる人が多い。ちょっとした心遣いなのであるが，待たされる身としては，有難い事なのだと思う。

今はチャンネルも440chになり，ありとあらゆるものが用意されている。現在は朝7時～9時は鳥のさえずり，9時～13時は森の中の川のせせらぎや小鳥の鳴き声のBGM。13時～21時は心地よくなるBGMである。

気が付かない所で五感をくすぐる。それが有線BGMの役割だ。ちなみに1回線，毎月5,000円かかる。

「新春随想」原稿募集

平成25年1，2月号に恒例になりました「新春随想」欄を企画いたしております。この欄は大変好評ですので，奮ってご投稿をお願い致します。

題　材　医事評論，診療閑話，身辺雑記，詩歌，俳句等なんでも結構です。
　　本文に関連した写真・イラスト等（1枚程度，カラー印刷はできません）も掲載できます。
字　数　800字以内（字数が多い場合は「新春随想」として掲載できないことがありますのでご承知ください）
締　切　平成24年12月7日㈮
宛　先　宮崎県医師会広報委員会

◎　原稿には「新春随想」と明記してください。
◎　ご投稿の原稿が他紙に掲載，または投稿中の場合はその旨お知らせください。
◎　掲載については，広報委員会にご一任くださいますようお願いいたします。
◎　原則として，原稿はお返しいたしません。返却を希望される方はその旨ご指示ください。
◎　日州医事は，会員以外（マスコミ・行政・図書館等）にも配付しています。

原稿は主にメールにて受け付けております。ワードまたはテキスト形式で作成・保存し，日州医事原稿専用アドレス（genko@miyazaki.med.or.jp）宛お送りください。もちろん，それ以外の方法（FAX，郵便等）でお送りいただいても構いません。

「新春随想」である旨とタイトル，ご氏名を付記して下記の宛先にお届けください。

原稿送付・問合せ先
宮崎県医師会広報委員会　新春随想係
E-mail:genko@miyazaki.med.or.jp
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101
FAX　0985-27-6550　TEL　0985-22-5118

※原稿送付の際は，他の原稿との混同を防ぐため「新春随想」である旨とタイトル，ご氏名を明記の上お送りください。

随　筆

医療とコミュニケーション

宮崎市　森（もり）　憲正（のりまさ）

久し振りに胃カメラ検査を受けた。７年前までは数年間毎年１回は検査して貰っていたので，被検者として検査に対する不安はあまりなかった。その上，検査技術も進歩していることであろうしと，思っていた。

何の苦痛も感ずることなく，無事検査は終了し，検査技術は流石に見事だと感心した。

そこまでは検査に対する聊（いささ）かの緊張のためか，一安心と技術の素晴らしさだけに思いは向いていた。しかし緊張感がとれて振り返ってみると何となく違和感がある。この違和感は何であろうか。考えている中にこの違和感はやがて現在一部に行われている医療に対する不信感と臨床医学教育に対する不満に至った。

検査経過の経緯は次のようである。検査部のカーテンで仕切られた受付に入ろうとしたところ，受付の席に座っていた看護師が急いで席を立って来て，入ろうとする患者を押し戻すようにして，廊下の椅子に坐らされた。そこで看護師による問診(医療面接？)があり，廊下で待つように指示された。待つこと暫し，検査室に招じ入れられ，咽頭部のスプレイ局所麻酔後，検査台に寝かされると直ぐ左側臥位をとらされて，マウスピースをくわえさせられた。会話も出来ない状態になったところで，大きなマスクで顔を隠した検査医師が出現，一言の会話もなく，内視鏡挿入が始まった。検査中は内視鏡による刺戟（しげき），痛みや嘔吐反射もなく，時折胃部の膨満感を感じたのみであった。

検査が終るや，検査医師は立ち去り，会話を交すこともなかった。看護師によってマウスピースは外され，居住まいを正して，検査室を出て廊下で待っていると現れたのは看護師で，検査後の注意事項を受けただけで，何の説明もなく，内科の診察室へ行くように指示されて，胃カメラ検査は終了した。検査医師の正体は全く不明，コミュニケーションはゼロであった。

今回検査を受けてみて，７年前まで検査を受けていた医師が如何に検査中もコミュニケーションを保つように努力していたかが思い出された。前医はマウスピースのため，一方的ではあったが，検査中経過を説明し続けていた。「今食道を通過中です。噴門を通過しました。胃の中に到達しました。前壁を見ています，後壁を見ています。パンチで試験切除します。一寸引っ張る感じがするでしょう，もう終わりますよ」と検査進行状況を一部始終話してくれていたので，全く不安はなかった。今回とは比較にならない違いである。何といっても不思議に思えたのは検査医師の正体が見えないことであった。会話どころではない。

それに付けて，大分以前のことを思い出した。基礎医学教室の教授であった同僚が嘗（かつ）て大学病院に入院中，見舞いに行った時のことである。ある日の午後，眠っていたところに物音で目が覚めた。研修医が既に部屋に入って来て，採血の用意をしているところであった。身体がだるく，もの言うのも辛かったので，黙っていたら

そのまま採血して一言の挨拶も会話もなく，部屋を出て行ったという。呆れ顔で臨床ではどんな教育をしているのかと詰問されて，当時臨床教育の一端を担っていた一人として赤面し，反省させられたものである。

医療の第一歩は医療者と患者との意思疎通である。意志疎通がなければ，患者からの信頼は得られない。意志疎通は会話から始まる。そのため，厚労省が示した臨床研修の到達目標の中に次のこと即ち『経験すべき診察法・検査・手技の(1)医療面接として患者・家族との信頼関係を構築し，診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために，1)医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し，コミュニケーションスキルを身に付け，患者の解釈モデル，受診動機，受療行動を把握できる』ことが要求されている。採血した研修医も今回の胃カメラ検査医師も到達目標に達していないとしか思えない。

フィリップ・A・タマルティ教授は著書「よき臨床医をめざして」の「臨床医とは何か，臨床医は何をするのか」の項で，患者とのコミュニケーションの重要性を挙げて，「臨床医は勤務時間の大部分を患者とのコミュニケーションに使うべきである」と言っている。多忙な医療の現状では，大部分とは無理であることは理解できるが，ゼロでは話にならない。さらに「メスが外科医のものであるように，言葉は臨床医のものである。言葉を有効に使えば患者もよく反応してくれる。さもないと，結果は惨憺(さんたん)たるものになってしまうかもしれない」と続く。

臨床技術修練の前に，医療の基本が出来ていなければ，患者の信頼は得られない。信頼を得られない患者の目には廊下に麗々しく掲げられた日本内視鏡外科学会技術認定証も空しく映る。

9月のベストセラー

1	置かれた場所で咲きなさい	渡辺和子	幻冬舎
2	聞く力　心をひらく35のヒント	阿川佐和子	文藝春秋
3	ソロモンの偽証　第Ⅱ部 決意	宮部みゆき	新潮社
4	約束の日　安倍晋三試論	小川榮太郎	幻冬舎
5	国難　政治に幻想はいらない	石破茂	新潮社
6	ノエル　―a story of stories―	道尾秀介	新潮社
7	JORGE JOESTAR	舞城王太郎	集英社
8	生きる悪知恵 正しくないけど役に立つ60のヒント	西原理恵子	文藝春秋
9	日本の国境問題	孫崎亨	筑摩書房
10	知らないと損する不思議な話	斎藤一人	PHP研究所

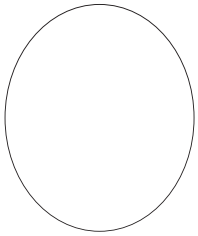
宮脇書店本店調べ　提供：宮崎店（宮崎市青葉町）☎(0985) 23-7077

エコー・リレー

（446回）
（南から北へ北から南へ）

宮医大剣道部

西都市　西都児湯医療センター　濵砂亮一（はますなりょういち）

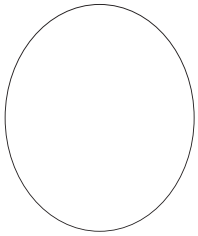


本年４月，旧宮崎医科大学剣道部ＯＢの落合秀信先生が，宮崎大学医学部附属病院救急部教授に就任されました。剣道部ＯＢからの教授就任は，３人目の快挙です。そこで祝賀会を開催する運びとなり，落合先生と剣を交えた世代のＯＢ約20人が集まりました。２期生の大先輩から同世代の先生（私は宮医大10期）・後輩に至るまで，ほんとうに懐かしい方々と再会できました。酒も入り，話がはずんでいくと，やはりその話題は大学時代のバカ話。剣道部としていろいろとやらかした，まさに武勇伝に花を咲かせ，当時の居酒屋関係の方々に多大な御迷惑をおかけしたことを反省しつつも，大笑いしながら，楽しいひと時を過ごすことができました。話の内容についてはここでは書けません。あしからず。しかし，現状報告を兼ねた自己紹介になってみると，それぞれの先生方が，それぞれの分野でしっかりと地域に根を下ろし，その持てる力を存分に発揮されていることを知ることができました。そんな頼もしい先輩方や後輩と，こうして宮医大剣道部という絆で結ばれていられることに大きな喜びを感じながら，またいつか，学生時代のバカ話とそれぞれが歩むこれからを酒の肴に，時を忘れて語り合えたらと思っています。

〔次回は，小林市の池田 徳郎先生にお願いします〕

地域医療への思い

西都市　大塚病院　大塚康二朗（おおつかこうじろう）



自分の人生はどういうものになるのか？小学生の頃にふと考えていたことを今でも思い出す。両親の背中を見ながら医師になり，西都に戻ると決めていたものの，そこまでの道のりは真っ白であった。福岡大学卒業後，昭和大学形成外科医局の門を叩いた。母の皮膚科診療に合わせた，手術もできる医師になりたいと考えたからである。全国に50以上関連病院のあるこの医局の人事は，全身熱傷や切断など激しい外傷病院もあれば，皮膚外科専門，先天奇形専門など様々であった。私は医局長から二択人事を勧められた際には常に宮崎の西都市の風景を思い出した。宮崎や西都市にとって必要な医療は何か？自然と厳しい環境を選んでいた。

10年間の医局生活に別れを告げ西都市に戻り３年目に入った。形成外科医としてだけでなく「地域に生きる医師」という思いで。もちろん専門性の高い疾患，病態は専門の先生に紹介させて頂くが，自分の力量の範囲で総合的に診察している。

子ども心に描いた自分のレールがどこに向かっているかはまだ分からない。だが，自分を育ててくれたこの土地，人々に恩返しをしていく人生観はかわらず持ち続けたいと願っている。

〔次回は，都城市の伊木 秀郎先生にお願いします〕

あなたできますか？

― 平成 23年度 医師国家試験問題より ―

（解答は 61ページ）

1．健常の若年成人女性に比較し，閉経後の女性で高値を示すことが多いのはどれか。
a　糸球体濾過量
b　末梢血白血球数
c　血中アンモニア
d　血清総ビリルビン
e　血清総コレステロール

2．顔面神経麻痺をきたしにくいのはどれか。
a　耳下腺癌
b　側頭骨骨折
c　顔面神経鞘腫
d　滲出性中耳炎
e　真珠腫性中耳炎

3．Vogt-小柳-原田病でみられるのはどれか。2つ選べ。
a　豚脂様角膜後面沈着物
b　前房蓄膿
c　雪玉状硝子体混濁
d　漿液性網膜剥離
e　夕焼け状眼底

4．78歳の女性。2日前から全身倦怠感が強いことを主訴に来院した。尿量が少なく色が濃いことも気になっている。8月で猛暑日が続いていたが，胃腸が弱いので冷たい飲料を飲み過ぎないようにしていたという。悪心を認める。意識レベルはJCSⅠ-1。体温 37.8℃。脈拍 96/分，整。血圧 98/54mmHg。呼吸数 24/分。全身に発汗を認める。血液所見：赤血球 426万，Hb 14.2g/dl，Ht 42%，白血球 13,300，血小板 20万。血液生化学所見：総蛋白 7.2g/dl，アルブミン 4.2g/dl，尿素窒素 30mg/dl，クレアチニン 1.3mg/dl，総ビリルビン 1.6mg/dl，AST 62IU/l，ALT 33IU/l，LD 350IU/l（基準 176～353），γ-GTP 47IU/l（基準 8～50），Na 137mEq/l，K 5.0mEq/l，Cl 104mEq/l。
　現時点で使用する輸液製剤として適切なのはどれか。
a　脂肪乳剤
b　注射用蒸留水
c　5%ブドウ糖液
d　乳酸リンゲル液
e　高カロリー輸液製剤

5．9歳の男児。学校で教師や生徒と会話をしないことを指摘され，心配した両親に伴われて来院した。幼稚園の年長のころから，話しかけられてもうなずく程度となり，発語が乏しくなったという。家庭では幼少時から現在まで，家族と普通に会話している。生育歴は言葉の発達が少し遅れた程度で，目立った問題はなかった。成績は中位である。身体診察所見に異常を認めない。
　最も考えられるのはどれか。
a　吃音症
b　自閉症
c　学習障害
d　行為障害
e　選択緘黙

6．在宅医療について正しいのはどれか。
a　薬剤師は訪問服薬指導を行うことができる。
b　家族は酸素吸入量を調整することができない。
c　介護者への精神的支援は在宅医療の対象でない。
d　プライバシー保護のため患者の生活には立ち入らない。
e　医師は訪問診療を行うことを都道府県へ届け出る必要がある。

7．手掌と足底とを除いた平均的なヒト表皮の厚さはどれか。
a　0.002mm
b　0.02mm
c　0.2mm
d　2.0mm
e　20mm

8．2型糖尿病の食事療法について誤っているのはどれか。
a　食物繊維は指示エネルギーに含まれる。
b　脂質は指示エネルギー量の 25%以内とする。
c　炭水化物は指示エネルギー量の 60%以内とする。
d　蛋白質は標準体重(kg)当たり 1.2g/日以内とする。
e　総摂取エネルギー量は標準体重×生活活動強度で求める。

9．身体依存，精神依存および耐性形成のすべてをきたすのはどれか。2つ選べ。
a　大麻
b　コカイン
c　モルヒネ
d　アルコール
e　アンフェタミン類

宮崎県感染症発生動向 ～８月～

平成24年７月30日～平成24年９月２日（第31週～35週）

■全数報告の感染症

１類：報告なし。

２類：結核26例が報告された。保健所別報告数を【図１】に示した。患者が14例，疑似症患者が４例，無症状病原体保有者が８例で，患者は肺結核が10例，その他の結核（結核性胸膜炎，腸結核など）が４例であった【表１】。男性・女性各13例で，年齢別報告数を【表２】に示した。

３類：腸管出血性大腸菌感染症36例が宮崎市（23例），都城（13例）保健所から報告された（集団感染事例あり）。男性20例，女性16例で年齢別報告数を【表３】に示した。患者が12例，無症状病原体保有者が24例で，主な症状は水様性下痢，腹痛，血便などであった（ＨＵＳ発症例なし）。原因菌のＯ血清型を【表４】に示した。

４類：○日本紅斑熱：宮崎市保健所管内で２例報告された。
- 40歳代の女性で，発熱，発しん，肝機能異常がみられた。
- 70歳代の女性で発熱，刺し口，発しん，ＤＩＣ，肝機能異常がみられた。

５類：○梅毒：宮崎市保健所管内で１例報告された。30歳代の男性で早期顕症梅毒Ⅰ期。硬性下疳がみられた。感染原因・経路は異性間性的接触。

○破傷風：都城保健所管内で１例報告された。70歳代の女性で筋肉のこわばり，開口障害，嚥下障害，発語障害がみられた。

○麻しん：宮崎市保健所管内で１例報告された。30歳代の女性で発熱，咳，結膜充血，コプリック斑，発しんがみられた（検査診断例）。東南アジアに渡航歴あり，ワクチン接種歴なし。

■５類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は3,299人（定点あたり99.4）で，前月比103％と横ばいであった。また，例年と比べると82％と少なかった。

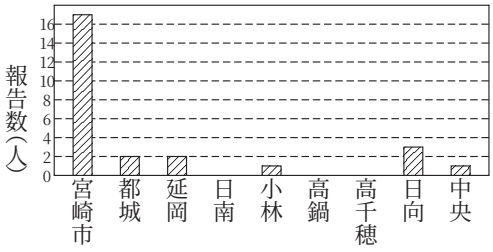


図１　保健所別報告数（結核）

表１　結核の病型及び報告数（人）

肺結核	10
肺結核及びその他の結核	0
その他の結核	4
疑似症患者	4
無症状病原体保有者	8

表２　結核の年齢別報告数（人）

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
3	2	3	3	2	4	9

表３　腸管出血性大腸菌感染症の年齢別報告数（人）

１歳	２歳	４歳	10歳代	20歳代	30歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
14	10	3	1	2	2	1	2	1

表４　腸管出血性大腸菌感染症のＯ血清型及び毒素型別報告数（人）

	ＶＴ１	ＶＴ２	ＶＴ１,ＶＴ２	ＶＴ
Ｏ26	7			
Ｏ103	11			
Ｏ111	3		6	1
Ｏ157		1	2	2
Ｏ不明	1		2	

■病原体検出情報（微生物部）

検出病原体		件	臨床症状等
ウイルス	ムンプスウイルス	1	・ウイルス性髄膜炎（頸部硬直），40℃，意識障害
	コクサッキーウイルスＡ９型	3	・ウイルス感染に伴う汎血球減少症の疑い，出血傾向（紫斑病） ・ウイルス性発疹症，39℃，上気道炎，気管支炎
	コクサッキーＢ５ウイルス	1	・髄膜炎，39℃
	単純ヘルペスウイルス１型	1	・ヘルペス口内炎疑い，38.4℃，咽頭炎，水泡，発疹（丘疹）
	ＲＳウイルス	4	・急性細気管支炎，上気道炎，下気道炎 ・ＲＳウイルス肺炎，呼吸不全，40℃，熱性痙攣，下気道炎
	麻しんウイルス	1	・麻しん疑い，39℃，発疹，コプリック斑，咳，結膜充血
細菌	Ｂordetella pertussis（百日咳菌）	2	・気管支炎　・百日咳疑，気管支炎
	サルモネラ属菌	18	・発熱（38.0℃），下痢，血便，腹痛 ・発熱（38.6℃），下痢，嘔気，嘔吐，腹痛　等
	毒素原性大腸菌（Ｏ148：Ｈ28ＳＴｐ），（Ｏ152：Ｈ10ＳＴｐ）（Ｏ27：Ｈ7ＳＴｐ Ｏ127a：ＨＵＴ ＳＴｐ）	3	・下痢，嘔気，嘔吐，腹痛　・ＥＴＥＣ疑，下痢 ・ＥＴＥＣ疑，発熱（38.0℃），下痢，嘔気，腹痛
	腸管出血性大腸菌（Ｏ26：Ｈ11ＶＴ１），（Ｏ103：ＨＵＴ ＶＴ1）（Ｏ111：ＨＵＴ ＶＴ１,２），（Ｏ157：Ｈ７ＶＴ１,２）（Ｏ157：Ｈ７ＶＴ２），（ＯＵＴ：ＨＵＴ ＶＴ1）（Ｏ157：Ｈ７ＶＴ２ /Ｏ157：Ｈ７ＶＴ１,２）	22	・ＥＨＥＣ疑，発熱（37.3℃），下痢 ・無症状 ・発熱（37.5℃），下痢 ・発熱（36.1℃），上気道炎，下痢，血便　等
	Ｖibrio fumissii	1	・下痢

前月に比べ増加した主な疾患はＲＳウイルス感染症と手足口病で，減少した主な疾患は，ヘルパンギーナ，Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。また，例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はＲＳウイルス感染症，Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎，ヘルパンギーナ，マイコプラズマ肺炎であった。

ＲＳウイルス感染症の報告数は322人（8.9）で前月の約6.6倍，例年の約２倍と多かった。延岡（20.3），日向（19.8）保健所からの報告が多く，年齢別では５か月以下が16%，６～11か月が26%，１歳が37%，２歳が14%，３歳以上が７%であった。

手足口病の報告数は451人（12.5）で前月の約2.6倍，例年の約６割であった。延岡（38.3），日向（35.5）保健所からの報告が多く，年齢別では６か月から３歳が全体の約８割を占めた。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は241人（6.7）で前月の約７割，例年の約1.4倍であった。延岡（25.8）保健所からの報告が多く，年齢別では３歳から６歳が全体の約６割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は671人（18.6）で前月の約半数，例年の約1.4倍であった。延岡（49.0），日向（39.8）保健所からの報告が多く，年齢別では６か月から３歳が全体の約８割を占めた。

マイコプラズマ肺炎の報告数は８人（1.1）で前月の約半数，例年の約2.4倍と多かった。11か月が１人，１～４歳が２人，５～９歳が３人，10～14歳が１人，70歳以上が１人であった。

前月との比較

	８月		７月		例年との比較
	報告数（人）	定点当たり（人）	報告数（人）	定点当たり（人）	
インフルエンザ	12	0.2	22	0.4	
RSウイルス感染症	322	8.9	49	1.4	★
咽頭結膜熱	99	2.8	76	2.1	
※溶レン菌咽頭炎	241	6.7	340	9.4	★
感染性胃腸炎	935	26.0	898	24.9	
水痘	104	2.9	111	3.1	
手足口病	451	12.5	176	4.9	
伝染性紅斑	11	0.3	5	0.1	
突発性発しん	227	6.3	208	5.8	
百日咳	0	0.0	2	0.1	
ヘルパンギーナ	671	18.6	1,256	34.9	★
流行性耳下腺炎	168	4.7	136	3.8	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	49	8.2	21	3.5	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	1	0.1	0	0.0	
マイコプラズマ肺炎	8	1.1	15	2.1	★
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	

★　例年同時期(過去３年の平均)より報告数が多い
※　Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■月報告対象疾患の発生動向〈８月〉

□性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は49人（3.8）で，前月比140%と増加した。また，昨年８月（3.4）の約1.1倍であった。

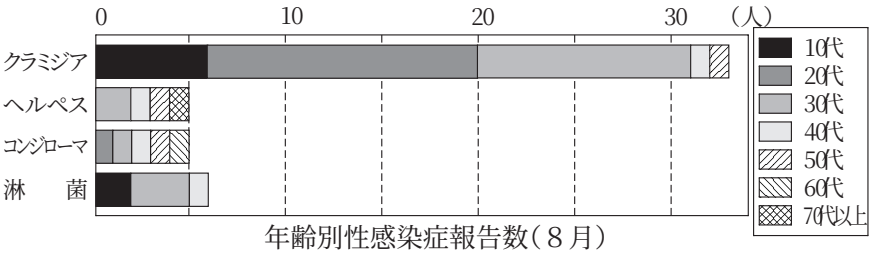
《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数33人（2.5）で，前月の約1.7倍，前年の約1.4倍であった。都城（6.0），延岡（4.0）保健所からの報告が多く，20歳代が全体の約４割，30歳代が約３割を占めた。

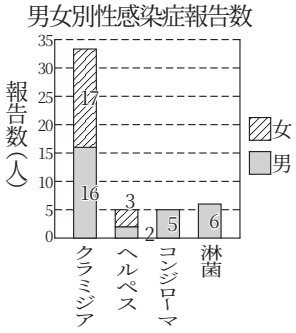
○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数５人（0.38）で，前月の約８割，前年の約６割であった。30歳代が全体の約４割を占めた。

○尖圭コンジローマ：報告数５人（0.38）で，前月の約５倍（前月１人），前年の約1.7倍であった。

○淋菌感染症：報告数６人（0.46）で，前月の約８割，前年の約７割であった。30歳代が全体の半数を占めた。



年齢別性感染症報告数（８月）



□薬剤耐性菌

【宮崎県】定点医療機関総数：７

定点医療機関からの報告総数は32人（4.6）で前月比160%と増加した。また，昨年８月（5.1）の約９割であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数29人（4.1）で，前月の約1.7倍，前年の約９割であった。70歳以上が全体の約６割を占めた。

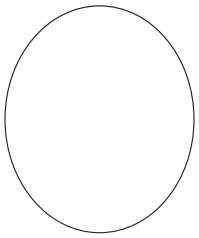
○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告はなかった。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数３人（0.43）で前月及び前年の３倍であった。70歳以上の報告であった。

○薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。　（宮崎県衛生環境研究所）

宮崎大学医学部だより

臨床神経科学講座
－精神医学分野－

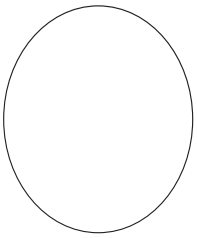


石田（いしだ）　康（やすし）教授

今年で本教室は講座開講35周年を迎えます。就任10年目となる石田康教授は3代目にあたり，今秋で11年目を迎えます。現在の大学内のスタッフは，教授以下講師の安部博史(心理)，医局長林要人，武田龍一郎，助教の長友慶子外来医長，船橋英樹，蛯原功介病棟医長，三好良英(卒後臨床研修センター所属)，倉増亜紀，倉増伸二，松尾寿栄(心理)，医員の吉村清太，小金丸剛，新甫知絵の全14名にて診療，教育，研究を行っています。県立宮崎病院精神医療センターや宮崎県精神保健福祉センターを始め県内４か所の関連病院に出向し地域の精神医療に貢献しています。また，県外(福岡，佐賀，長崎)の３施設にも出向し学外において医局員は20名程在籍しています。診療においては各人，精神科一般にくわえ，石田教授は性同一性障害の診断と治療を行い県内外から患者さんが訪れています。林講師は認知症疾患を主に診断とBPSDの治療，武田講師はうつ病や慢性疼痛性障害の診断と治療，長友助教はてんかんの治療，船橋助教は妄想性うつ病の診断と治療の他，緩和ケアチームの県内外でのリーダー的存在となり活躍しています。当科は疾患別に専門グループ化を明確におかず，精神科一般を診ながらそれぞれの専門についてさらに研鑽を積んでいます。各人の専門となる疾患分野においても定期的に行われるカンファレンスなどで話し合い検討しています。当科での治療はリハビリの部門が脆弱な体制でしたが，入院中の患者さんを対象に安部講師や松尾助教が中心となり精神の安定化を図る目的で集団行動療法を行っています。また，外来患者を対象に看護学科白石教授のグループとうつ病患者の認知行動療法等を行う予定もあります。基礎研究領域において石田教授はパーキンソン病モデルラットを作成し，神経細胞移植とＬ-ドーパ治療における行動評価を行っています。今後精神疾患における再生医療についても発展させていくのではないかと期待されています。安部講師は統合失調症患者にみられる潜在抑制機構に対する新規抗精神病薬の効果や抗パーキンソン病薬の脳内作用機序について行動および組織学的に検討し，武田講師は抗うつ薬による痛みの軽減作用に対する基礎実験，特に影響のある大脳領域と情動との関係を検討しています。船橋助教はかゆみを有する動物モデルを作成し，かゆみの神経基盤を組織学的に検討しています。臨床研究として林講師は認知症の周辺症状(BPSD)に対する漢方薬の効果についての検討，船橋助教は精神病性うつ病における抗うつ薬の効果と脳機能画像研究，長友助教は新規抗精神病薬の飲み心地調査，更年期障害を有する女性に対する抗うつ薬の効果の検討，三好助教は卒後臨床研修センターに所属しながら研修医のバーンアウト研究を心理検査を行いながら検討しています。研究テーマは多岐にわたり各自がそれぞれの特徴を生かし，着実に結果を出している状況であります。近年，大学病院医師の関連病院や出向病院からの引き上げ問題が取りざたされていますが，人員配分の困難さはやはりきびしいのが実情です。しかし，何とか地域医療の崩壊を防ごうと努力しています。研修制度の変更から入局していただける人材の確保に難渋はしておりますが，私たちの医療スタイルを理解し共に働いていただける医師の確保をしていきたいと考えています。

（医局長　林（はやし）　要人（よしひと））

専門分科医会だより
（内科医会）


栗林（くりばやし）　忠信（ただのぶ）　会長

宮崎県内科医会の近況

平成20年４月（歴代24期～）に第９代県内科医会長に就任して無事に２期を務め，本来ならばこれで後任に引き継いで役職御免と考えていましたが，後１期やることになり平成24年４月から３期目を迎えることになりました。２期目と同様，小牧（宮崎市），大窪（都城市），野村（延岡市）の３副会長，中津留常任理事（都城市）その他の各理事の先生方と協力して職務を全うしたいと思います。

平成24年６月９日に内科医会総会を開催し，今年度の事業計画，予算も無事に承認され，その後の学術講演会では宮崎大学医学部血液・血管先端医療学講座教授藤元昭一先生から「新しいCKD分類～何が，何故，如何に変わったのか？～」，また大阪市立大大学院医学研究科老年血管病態学准教授庄司哲雄先生から「動脈硬化性疾患ガイドライン（2012）：改訂のポイントとCKD」と題して，今最もホットな話題をご講演頂き，会員一同大いに益したところでした。総会が終わってほっと一息といったところですが，本年10月13日に当県内科医会が担当で第47回九州各県内科医会連絡協議会（九内協）と第29回九州各県内科審査委員懇話会（九内懇）を開催せねばならず，一息つく暇もなくその準備に追われています。この九内協，九内懇は会員の日頃の診療でのこと，医療制度上のこと，介護に関してのこと，保険審査上でのことなどで疑問に思っている問題点を持ち寄って協議し，各県の意見を調整して日本臨床内科医会医療・介護保険委員会へ要望書を提出し，またレセプト審査での地区間差異や社保・国保間の差異の解消に努めるなどの重要な会議であります。現在，九州各県に協議題の募集を行っていますが，集まり次第，問題点を整理して九州各県に回答を求めると共に当県の回答をまとめなければなりません。これが終わって初めて一息つけるのだと思います。

県内科医会では会誌を年２回発刊していますが，第80号（平成23年９月）では国立病院機構都城病院小柳左門先生の「心房細動診療の進歩」，第81号（平成24年３月）ではけいめい記念病院岡原一德先生の「認知症診療の実際－地域医療における『物忘れ外来』の役割－」を特集しました。Postgraduate Educationではむらい内科クリニック村井幸一先生の「臨床膠原病講座（９）Sjogren症候群とMikulicz病，（10）ベーチェット病」，宮崎大学第２内科松永卓也先生の「リンパ節腫大の鑑別のポイント」，さらに同第２内科久冨木庸子先生の「血小板数の異常」が掲載され，会員に大いに益しました。永年会員のためにPostgraduate Educationで「漢方診療について」ご教授いただいていた木下内科医院木下恒雄先生がご逝去されたことはまことに残念なことでありました。永年の先生のご功績に感謝し，ご冥福をお祈り申し上げる次第です。また本年４月から編集委員長が木佐貫博人先生から宮永省三先生にバトンタッチされました。新委員長の下で会誌が益々素晴らしいものになっていくことを期待しております。　　（栗林　忠信）

メディアの目

想定

宮崎放送取締役・報道制作局長
原口俊幸（はらぐち　としゆき）

あまりにもショッキングな数字だった。死者数，最大４万2,000人。国の有識者会議が８月29日に発表した，南海トラフ地震による被害想定での宮崎県の死者数である。全国の死者数が最大約32万人超，宮崎県はその８分の１を占め，さらに宮崎県民の10数人に１人は怪我を負うか家が無くなることになるような被害想定である。前代未聞，有史以来の記録である。

国や地方自治体は，地震や津波の専門家が示した地震・津波の規模や被害想定等を基に防災計画，ハザードマップ，防災マニュアル等を策定し訓練が実施される。また，企業や各種団体等もこれを基にマニュアルや事業継続計画（ＢＣＰ）を策定することになる。したがって，地震や津波の専門家が想定を小さく見誤ると，重大な結果につながる。大災害となった３．11東日本大震災は正にその実例となった。

実は，東北で30年以内に起こるとされた宮城県沖地震の想定はM（マグニチュード）7.5，他の震源域と連動した場合にもＭ8.0であった。しかし実際に起こったのは観測史上最大級でＭ9.0，これは想定すらされていなかった。何故なら発生規模の想定は，過去数百年の間に発生し今後も起きる恐れがある地震での想定だったからである。最近発生した大きな地震は，東北地方では1896年の三陸沖地震のＭ8.5，南海トラフでは1946年の南海地震と1911年の奄美大島近海地震のＭ8.0であり，江戸時代の宝永地震のＭ8.6が日本周辺で起きる最大規模の地震と考えられていた。

ちなみにマグニチュードとは，地震が発するエネルギーの大きさを表した指標値で，マグニチュードが１大きいと地震のエネルギーは約32倍となり，２大きいと1,000倍になる。あらためてＭ9.0という数字の恐ろしさが理解できる。

そこで，「南海トラフ巨大地震」では諸条件が最悪の場合を想定して東日本大震災と同じＭ９クラスを想定すべきとしたのである。その結果が冒頭の被害想定になる。しかし，地震の想定をＭ９クラスとして地震・津波の対策を進めましょうと言っているのであって，Ｍ９クラスの地震がすぐ起こると言っているわけではない。さらに死者数等についても最悪の場合の最大数であり，対策・対応次第で被害は劇的に減らすことができるとしている。この厳しい数字を，今後にどう生かしていくかは，国や地方自治体等とともに，我々個人にも突きつけられている。この想定で諦めてはいけないのだ。津波は最終的に速やかに逃げるしか方法はない。自宅の耐震化や家具の固定も大切だ。一人ひとりができることから始めるしかない。そうすることによって，災害に強い社会になる。想定は私達のために出されたもの。そう思って今後に備えたい。

－各種委員会－

予　防　接　種　委　員　会

と　き　平成24年８月30日㈭
ところ　県医師会館

佐藤常任理事の司会により開会し，稲倉会長より「日本の予防接種体制は他の先進国より遅れているが，日本医師会，小児科医会等と連携し，任意接種の定期接種化に向けて活動していきたい」と挨拶があった。髙山委員長と進行を交代し自己紹介の後，議事に入った。

報　告

１．広域予防接種体制について
　今年も広域予防接種を実施しており，定期接種はすべての市町村が参加している。子宮頸がん等３ワクチンは，昨年は，参加しない市町村が７あったが，今年は２に減った。日南市，串間市が参加していないが，地元医師会から要望を出すようである。

２．宮崎市郡医師会予防接種勉強会について
　この委員会からの要望で，昨年から宮崎市郡医師会の予防接種勉強会をテレビ会議放映しており，今年は８月６日に実施した。

３．その他
　昨年開催した予防接種関係の「日医生涯教育協力講座」，「県民健康セミナー」が報告された。

協　議

１．各地域の予防接種体制について
　各郡市医師会を通じて行った予防接種に関する調査結果をもとに検討を行った。
　接種料金については，市町村で差があるが，数年前と比べると各郡市医師会の行政との交渉により差が縮小されている。しかし，行政の接種料金の算定基礎で，同時接種の際，初診料相当分を再診料で算定している市町村があり問題となった。
　接種率については，ＭＲは１年齢のみが対象で算出方法を全国一律で示しているため接種率が把握できたが，他の予防接種は，例えばＤＰＴについては，生後３か月から７歳半までが対象年齢で，かつ複数回（３回）の接種となり，対象者の把握が困難であり各市町村で算出方法がばらばらなため，有効な接種率が把握できず今後の課題となった。

２．広域化の問題点について
　都城地域の医療機関には，曽於市，志布志市の方が多く来られるが，行政との契約の関係で定期予防接種ができないので，県医師会でも働きかけをすることとなった。

３．ポリオ生ワクからＩＰＶへの変更に伴っての問題点について
　生ワクチンより免疫をつけるのに時間がかかるため速やかに実施してほしい。また，11月から４種混合がはじまるが，それを待つようなことはやめてほしいとのお願いがあった。ワクチン代が高すぎるという意見も出た。

４．接種率向上について
　各地域での取組みについて意見交換が行われた。宮崎市ではＭＲについては未接種者に５回ほど文書で接種勧奨していることが紹介された。

出席者－髙山委員長，村井副委員長，
　　髙村・橋口・石内・鮫島・峰松・
　　布井・秦委員
（県医）　稲倉会長，佐藤常任理事，
　　峰松理事（重複），小川課長，
　　久永課長補佐

医　学　会　誌　編　集　委　員　会

と　き　平成24年９月３日㈪
ところ　県医師会館

上田理事より開会，富田副会長の挨拶に続き，協議が行われた。

本委員会委員長に菊池郁夫先生，副委員長に河野寛一先生が任命された。

掲載論文16編からなる第36巻第２号のカテゴリーの検討が行われ，総説２編，臨床研究５編，症例５編，診療２編，地域医療１編，クリニカルカンファレンス１編が決定した。

第37巻第２号総説の執筆依頼については，委員長へ一任することが承認された。

出席者－菊池委員長，河野副委員長，
東・後藤・黒川・山田・古川・森・
坪井・松本・上園・稲津・松岡・
阿南委員
（県医）　富田副会長，上田・直井理事，
杉田課長，三田係長

健康スポーツ医学委員会

と　き　平成24年９月10日(月)
ところ　県医師会館

池井常任理事より開会，河野副会長の挨拶に続き，報告・協議が行われた。

本委員会委員長に田島直也先生，副委員長に田中俊正先生，押川紘一郎先生が任命された。

報　告

１．平成23年度県民健康セミナー
平成24年３月20日に開催した県民健康セミナー「今こそ自分の健康を考えよう～こころとからだを～」について報告が行われた。

２．平成23年度県医健康スポーツ医学セミナーについて
平成24年２月18日に開催した県医健康スポーツ医学セミナーについて報告が行われた。

３．平成24年度県医健康スポーツ医学セミナーについて
平成24年６月30日に開催した県医健康スポーツ医学セミナー「熱中症」について報告が行われた。

４．日本医師会認定健康スポーツ医制度実施要領の改訂について
認定健康スポーツ医認定証の様式が変更されたことについて報告が行われた。

協　議

１．平成24年度県民健康セミナーについて
健康教育委員会との合同の講演形式で本年度も健康スポーツ医学委員会から講演を１題提案して行うことが承認され，ロンドンオリンピック・パラリンピック関係者からの講演またはこころのケアをテーマとした講演を，来る10月４日に開催する健康教育委員会において提案することが決定した。

２．平成24年度県医健康スポーツ医学セミナーについて
平成24年度中に開催することが承認された。テーマ，講師等について各委員から意見が出され検討を行い，学校内でのスポーツに関連した事故をテーマにセミナーを企画することが決定した。
また，次年度６月頃に熱中症をテーマにセミナーを企画することが決定した。

３．宮崎県スポーツドクター連盟について
平成23年度の歳入歳出決算について会計監査報告があり承認された。また，平成24年度事業計画・予算についても承認された。

４．その他
スポメディネットのパンフレットについて検討を行い，内容に変更点が見られるため再作成することになった。詳細については小委員会で検討し内容を決定することとなった。

出席者－田島委員長，田中副委員長，
小岩屋・松村・宮永・帖佐・
柳田・渡部委員
（県医）　河野副会長，池井常任理事，
杉田課長，三田係長

第13回宮崎県医師会医家芸術展

理事　髙橋政見（たかはしまさみ）

今回で第13回を迎えました医家芸術展は，８月15日㈬から19日㈰まで県立美術館県民ギャラリーにて開催されました。44名の医師会員及びご家族の方々より絵画・写真・書道の３部門に119点の応募をいただきました。出展者の方々に厚く御礼申し上げます。

猛暑の中にも拘らず，多くの医療機関がお盆休みということとマスコミからの取材による報道もあり，入場者は去年を大幅に上回って５日間で1,400人を超えました。毎年の行事として定着していることが窺えスタッフ一同喜んでおります。

開催期間中の入場者数は以下のとおりです。

15日㈬　339人，16日㈭　247人，17日㈮　228人
18日㈯　354人，19日㈰　283人

５日間　計1,451人

来場者の方々より「すばらしい作品に感動した」との感想を多数いただきましたので，一部ですが紹介いたします。

○ロンドンオリンピックはスポーツで人の心に感動を与えてくれます。芸術は人の心を癒してくれます。今日はやさしい芸術に出会えました。そして幸せな気持ちになりました。

○力強く，そしてやさしいタッチに先生のお人柄があふれていました。今年も元気をたくさんいただきました。来年も楽しみにしています。

○猛暑の中観賞させていただきましたが，暑さもふっとぶようなすばらしい作品ばかりでした。

○お医者さまという大変なお仕事の合間にこのようにすばらしい作品を創られるのは，才能がいろいろとおありなのですね。とても親しみを感じます。

今回も世話人として藤木浩先生（絵画），押川紘一郎先生（写真），弓削三重子様（書道）に多大なご尽力をいただきました。深く感謝申し上げます。なお，作品の一部は作者のお許しを得て，日州医事の表紙を飾ることになっています。

来年の医家芸術展は，平成25年８月13日㈫から18日㈰の６日間，県立美術館で開催する予定です。会員及びご家族の皆様の作品をお待ちいたしております。

たくさんのご出展をいただき，また多くの方にご来場いただいて今回も無事終了することができました。皆様の声を励みに今後ますますこの芸術展が発展していくことを念じております。

平成24年度医師会立看護学校担当理事連絡協議会

と　き　平成24年８月31日㈮
ところ　県医師会館

１．報　告
１）平成23年度都道府県医師会看護問題担当理事連絡協議会について
２）県に対する要望について
３）平成23年度看護学校卒業生および平成24年度入学生の状況について
４）医師会立看護学校卒業者就業状況(平成17～22年度)について
５）医師会立看護学校運営状況について
６）医師会立看護学校入学試験案内広告について
７）平成23年度看護教育充実支援事業費補助金について
８）中四九地区医師会看護学校協議会について

２．協　議
１）平成24年度看護教育充実支援事業費補助金について
県医療薬務課より本事業について説明が行われた。
平成23年度は看護教育教材整備事業のみだったが，今年度からは看護教育等養成支援事業も平成24～25年度に亘って行う。教員が看護教員養成講習会を受講する間の学生教育に要する経費を最優先し補助する。既に全ての教員が養成講習会を受講済みの学校(課程)については，教育研修や養成所での看護教員研修会開催費，実習施設と養成所の連携体制強化に要する費用に充てていただきたい。

２）看護学校運営等への要望事項について
事前アンケート調査結果に基づき，意見が交わされた。
⑴准看護師養成校の閉鎖について
閉鎖について非公式に話題になったことがある学校もあったが，議論になったことのない学校が多く，各学校が養成校存続の努力をしている。以前は入学応募者が少ないため定員を減らした方が良いという話になったことがあるが持ち直したという学校や，存続のため医師会からの繰入金を増額して対応しているという学校もあった。また，准看護師は働きながら資格を取るので現場に出た時のギャップが少ない。既卒の入学者が多く，家庭の事情により准看護師資格しか取れない人もいるので養成存続は必要であるという意見が出された。
⑵神奈川県の准看護師養成を中止する方針について
全ての学校が反対の意見だった。各学校の意見は以下のとおり。
・授業料の安さ・修業期間の短さの面から社会人経験者や母子家庭の親の入学希望者が増えている。
・地方においては准看護師を必要とする医療機関は非常に多く，看護師確保が困難なため准看護師養成は存続すべきである。看護師・准看護師の活躍の場は介護・福祉の分野などへ多様化して

おり需要はますます広がっている。

・医師会立看護学校は民間養成校に比べ授業料が安く，働きながら学べるため経済的な負担も少ない。また，地元就業率は８～９割と高く地域への貢献度も大きい。看護職育成への運営補助は地域医療を守るためには必要であり，補助が中止されれば存続できない学校も出てくることが懸念され，地域医療の崩壊につながりかねない。

・追随する自治体が出てくる前に，厚生労働省など関係機関に強く働きかけていくことが重要である。

⑶准看護師試験と看護師試験の同一日実施について

各学校の意見は以下のとおり。

・本校の場合，看護師試験を受ける生徒は既に准看護師免許を取得しているためこのようなケースは問題ないが，レギュラーコースの場合，同一日の実施は望ましくないと考える。

・看護師国家試験，准看護師資格試験が別日での実施は，看護師国家試験の不合格者が准看護師資格試験に合格すれば，准看護師として働き次のステップを目指すことができるメリットがあった。同一日実施になれば看護師国家試験の不合格者は無資格のまま１年間待たねばならない。看護師国家試験不合格者に准看護師資格試験受験の機会をなくすことは医療資源の減少につながり，地方の看護師不足の解消にならない。また，一部の地域で同一日実施されることは都道府県によってばらつきが生じることになり不公平である。

県医療薬務課からは，准看護師試験の実施日については九州内で，２月第３金曜日に実施するという取り決めをしており，看護師国家試験は日曜に行われるため重なることはなく，同一日にするという話も全くないとのことだった。

本件については，九医連常任委員会において，九州ブロックとして統一した同一日実施の反対意見書を提出するかどうか協議することになった。

出席者

宮崎―済陽学校長，弘野・白尾副校長，
　　小玉事務長
都城―野田担当理事・看護学校副校長，
　　若松事務係長
延岡―野田学校長，佐藤副校長，
　　井野内看護学校事務長
日向―青柳看護学校副校長，椎葉事務員
児湯―黒木事務長
西諸―内村副会長(小林准看護学校長)，
　　杉原看護担当理事，遊木事務局長
県医療薬務課―郡司課長，田中主幹，
　　早川主査
(県医)稲倉会長，富田副会長，立元・
　　牛谷常任理事，佐々木理事，杉田課長，
　　喜入主事

日医インターネットニュースから

■国内生産額６兆9874億円，過去最高に
― 11年薬事生産動態統計 ―

厚生労働省が８月21日に発表した2011年の薬事工業生産動態統計年報（概要）によると，医薬品最終製品の国内生産金額は前年に比べ3.1%増の６兆9,874億円となり，過去最高となった。うち医療用医薬品は3.2%増の６兆3,445億円で，同じく過去最高を記録した。

一方，医薬品の輸出金額は２年連続で減少した。輸出国は中国が韓国を抜いて２位に浮上している。

医薬品最終製品の国内生産金額を薬効分類別で見ると，トップは「循環器官用薬」の１兆3,480億円で，全体の19.3%を占めた。ただ，高脂血症用剤（生産金額2,283億円）の前年比17.5%減などが響き，循環器官用薬は3.8%減と落ち込んだ。次いで「中枢神経系用薬」（生産金額8,494億円，前年比10.5%増），「その他の代謝性医薬品」（6,798億円，7.1%増）などが続いた。中枢神経系用薬では，抗てんかん剤（18.3%増）や抗パーキンソン剤（14.4%増）などが好調で，薬効全体の伸びをけん引した。　（平成24年８月28日）

■肺炎が３位に，53年ぶり３大死因変化
― 11年人口動態統計確定 ―

厚生労働省は９月６日，2011年人口動態統計の確定数を公表した。死亡数が出生数よりも20万2,260人多く，死亡数が出生数を上回ったのは07年以来，５年連続となった。死因別死亡数では，肺炎が12万4,749人で３位となり，これまで３大死因の１つだった脳血管疾患の12万3,867人を上回った。３大死因が変わったのは1958年以来，53年ぶり。

11年の出生数は105万806人で，10年より２万498人減少した。死亡数は125万3,066人となり，前年から５万6,054人増加した。東日本大震災による死亡数は１万8,877人だった。死亡数が出生数より20万2,260人多く，死亡数が出生数を上回ったのは５年連続となる。10年は死亡数の方が12万5,708人多かったため，11年は減少幅も大きくなった。

死因別死亡数を見ると，第１位は「悪性新生物」で35万7,305人（前年比3,806人増），第２位は「心疾患」で19万4,926人（同5,566人増），第３位が「肺炎」で12万4,749人（同5,861人増）となり，これまで３大死因の１つとされてきた「脳血管疾患」の12万3,867人（同406人増）を上回った。厚労省担当者は肺炎が３位になったことについて「肺炎で死亡しやすい高齢者が増加していることが要因の一つとして考えられる。今後も肺炎の死因数は増加していくかもしれない」としている。

● 35歳以上の出生数は増加

出生数を母の年齢（５歳階級）別に見ると，34歳以下の各階級では前年から減少したが，35歳以上の各階級では，35～39歳が22万1,272人（同1,171人増），40～44歳が３万7,437人（同2,828人増），45～49歳が802人（同29人増），50歳以上が41人（同22人増）となり，高年齢層の出産数がそれぞれ増加した。　（平成24年９月11日）

■時間外対応加算，届け出は３割
― メディファクス調査 ―

2012年度診療報酬改定で地域医療貢献加算から名称を変更し，要件が見直された時間外対応加算の算定を届け出た診療所は，６月１日時点で全診療所の29.4%だったことがメディファクスの調査で分かった。地域ごとにばらつきはあるが，10%台にとどまっている地域は首都圏に多かった。

メディファクスは地方厚生局に同加算の届け出状況を開示請求した。医科診療所数８万4,786施設に対し，加算１，２，３を届け出た施設数は２万4,935施設だった。標榜時間外に常時，患者からの電話などによる問い合わせに応じる加算１は9,115施設。地域医療貢献加算の要件を引き継いだ加算２は１万5,704施設。地域の医療機関と連携して対応する加算３は116施設だった。

● 10%台は首都圏に集中

加算１，２，３を届け出た施設数が20%を切って10%台だったのは埼玉（19.4%），千葉（14.6%），東京（17.8%），神奈川（18.6%），沖縄（15.4%）の５都県で首都圏に集中した。大阪（20.3%）も同水準で，「ビル診」の多い都市部を抱えていることが要因の一つとみられるが，京都（34.6%）や福岡（38.6%），広島（44.3%）など政令指定都市のある府県でも３割を超えるケースがあった。九州の各県は沖縄を除いていずれも35%以上だった。

61.9%と最も高かった石川は，２年前に本紙が実施した調査（10年６月１日時点の届け出）でも地域医療貢献加算を届け出た割合が最も高く，同加算を届け出ていた施設が引き続き加算２に届け出たことがうかがえる。

●加算３は18県で届け出なし

連携を必要とする加算３は18県で届け出がなかった。30施設が届け出た神奈川を除く全ての都道府県で１桁台にとどまった。

鈴木邦彦常任理事はメディファクスの取材に

「(加算３の)１点は低く負担が重いという意見もある。このため算定が少ないのかもしれない。今回の改定で加算を３つに区分し，要件を明確化したことは一定の評価をしており，このやり方が有効なら点数の引き上げを求めていきたい」と述べた。　（平成24年９月14日）

■中１・高３の麻しん定期接種，終了へ
― 厚労省が改正案 ―

厚生労働省の厚生科学審議会・感染症分科会感染症部会「麻しんに関する小委員会」(委員長＝岡部信彦・川崎市衛生研究所長)は９月13日，「麻しんに関する特定感染症予防指針」の改正案を取りまとめた。麻しんの患者報告数が大幅に減少したため，2012年度までの時限措置で実施している第３期(中学１年相当)と第４期(高校３年相当)の麻しん・風しん定期予防接種は延長しないことにした。改正案は感染症部会に上げる。

厚労省によると，08年に１万1,012件あった麻しんの患者報告数は，11年に434件にまで減少。麻しんに対する抗体保有率も上昇しており，時限措置を延長しても効果は限定的と予想されることから，第３期と第４期の定期予防接種は今年度で終了とした。

ただ厚労省健康局結核感染症課の正林督章課長は「当初の目的はほぼ達成されたが，ワクチンの必要性そのものが減ったわけではない」と強調。今後は麻しんの排除に向けて対策を強化していく必要があるとした。

第１期(生後12か月以上24か月未満)と第２期(小学校入学前の１年間)の定期予防接種については，引き続き接種率目標の95.0%以上を達成・維持することとした。

●「15年度までに麻しん排除を達成」

今後の目標として，15年度までに麻しん排除を達成することを改正案に盛り込んだ。ＷＨＯ(世界保健機関)から麻しんの排除認定を受けることを目指す。

現行の指針では麻しん排除の定義を「麻しんの診断例が人口100万人当たり年間１例未満」とし，12年度までに麻しんの排除を達成することを目標としているが，現在ＷＨＯで麻しん排除の新たな定義や排除達成の認定基準を検討しているため，麻しんの排除が達成されているかどうかは新たな定義や認定基準が示されてからでないと判断できないとした。　（平成24年９月21日）

■光源コードによる熱傷で注意喚起
― 医療機能評価機構 ―

日本医療機能評価機構は９月18日，手術中に光源コードの先端で熱傷を生じさせた事例が発生したことから医療安全情報で注意を呼び掛けた。2008年１月～12年７月に５件の報告を受けた。

報告された事例では，手術中に電源が入った光源コードの先端を患者のサージカルドレープの上に置いたため，患者に熱傷を生じさせた。熱傷部位は，腹腔鏡用光源では大腿部，光源付き開創器では腹部と大腿内側，手術用内視鏡光源では恥骨部，光ファイバー手術用照明器では腸骨付近だった。事例が発生した医療機関では，光源装置を使用していない時は光源コード先端の光量に注意することや，光源コードを術野付近に置かないことに取り組んでいるという。

（平成24年９月21日）

■マイコプラズマが例年以上に流行
― 感染研，注意呼び掛け ―

マイコプラズマ肺炎が例年以上に流行している。国立感染症研究所によると，今年初めから９月２日までの累積報告数は１万4,150件(定点当たり30.3)で，大流行した昨年同時期の7,891件(定点当たり17.12)の２倍近い数字となっている。感染研は今後も報告数が増加する可能性が高いとして注意を呼び掛けている。

（平成24年９月21日）

このコーナーの記事は“日医インターネットニュース”から抜粋して掲載していますので，詳細を知りたい方は日本医師会ホームページでご覧ください。毎週火・金に更新していますので全ての記事が閲覧できます。

日医インターネットニュースへのアクセス方法
- 日本医師会(http://www.med.or.jp/)にアクセス
- 日本医師会ホームページ右上のメンバーズルームをクリック

メンバーズルームに入る方法
- ユーザーＩＤ：会員ＩＤ番号(日医からの送付物の宛名シール下部に印刷されている10桁の数字)を０も含め，全て半角で入力
- パスワード：先生の生年月日の６桁の数字を半角で入力
  例）1931年５月１日生まれの場合，310501

医師国保組合だより

保健事業のご案内

医師国保組合では，下記の保健事業を実施いたしておりますので，ぜひご利用ください。

1．健康診断

対 象 者　以下のいずれかに該当する被保険者

・組合員・高齢組合員並びにその配偶者

・本年度中に満40歳になる方～74歳の方

実施機関　各地域の健診機関並びに医療機関

※日曜日の集団健診（予約は本組合にご連絡ください）

実施機関：宮崎市郡医師会成人病検診センター

平成24年	10月21日（第３日曜日）	定員各20名 （※子宮頸がん検診は不可）
	11月11日（第２日曜日）	
平成25年	１月20日（第３日曜日）	
	２月３日（第１日曜日）	
	２月17日（第３日曜日）	
	３月３日（第１日曜日）	

検査項目　血液化学検査，肝機能検査，血糖検査，尿検査，心電図検査，貧血検査，胸部X線検査，便潜血検査，腹部超音波検査他，詳細は「健康診断個人票」にてご確認ください。

※本年度より，胃・大腸内視鏡検査も追加され一定額を補助いたします。

実施期間　平成24年４月から平成25年３月末まで

2．脳ドック等の補助

対 象 者　被保険者全員（組合員とその世帯に属する方）並びに高齢組合員

実施機関　各地域の健診機関並びに医療機関

検査内容・補助額　①頭部ＭＲＩ，頭部ＭＲＡ，頭部ＣＴ等

※単独で実施，人間ドック等のオプション実施でも可です。

② 20,000円を上限として実費

※年度内に１名につき１回の補助です。

実施期間　平成24年４月から平成25年３月末まで

3．歯科健康診査

対 象 者　被保険者全員(組合員とその世帯に属する方)
※高齢組合員は対象外です。

実施機関　宮崎県歯科医師会の会員である歯科医院

健診内容　歯周病の状況，歯の状況，補綴の状況，顎関節等

実施期間　平成24年４月から平成25年３月末まで

4．肺炎球菌ワクチン予防接種補助

対 象 者　被保険者全員(組合員とその世帯に属する方)並びに高齢組合員

補助金額　１名につき5,000円
※支払額が補助額を超えた場合の差額は自己負担となります。

接種期間　平成24年４月から平成25年３月末まで

5．インフルエンザワクチン予防接種補助

対 象 者　被保険者全員(組合員とその世帯に属する方)並びに高齢組合員

補助金額　１名につき2,000円(高齢組合員は1,000円)
※期間内に１名につき１回の補助です。

接種期間　平成24年10月から平成25年２月末まで

組合員の皆様方には詳細のご案内を送付いたしております。
ご不明な点は，事務局までお問い合わせください。

事務局・問い合わせ先
宮崎県医師国民健康保険組合
〒880-0023 宮崎市和知川原１丁目101 ☎ 0985-22-6588

薬事情報センターだより（305）

新薬紹介（その58）

今回は８月に薬価収載された抗リウマチ剤ケアラム錠25mg・コルベット錠25mg（一般名：イグラチモド）とＧｎＲＨアンタゴニスト（徐放性）/前立腺癌治療剤ゴナックス皮下注用80mg・120mg（一般名：デガレリクス酢酸塩）について紹介いたします。

ケアラム錠25mg・コルベット錠25mg（一般名：イグラチモド）

イグラチモドは，富山化学工業株式会社において創出されたクロモン骨格を有する新規抗リウマチ剤です。主として，Ｂ細胞による免疫グロブリン（IgG，IgM）の産生及び単球/マクロファージや滑膜細胞による炎症性サイトカイン（ＴＮＦα，ＩＬ-1β，ＩＬ-6，ＩＬ-8，ＭＣＰ-1）の産生を抑制することにより，結果として関節リウマチ患者でみられる過剰な免疫応答や炎症・疼痛反応を抑制するものと考えられています。なお，これらの作用は，転写因子ＮＦκＢの活性化抑制を介した作用であることが示唆されています。

本剤は，単剤試験のみならずメトトレキサート併用試験においても有用性が認められました。2012年６月，「関節リウマチ」を効能・効果として承認され，大正富山医薬品株式会社より「コルベット錠25mg」，エーザイ株式会社から「ケアラム錠25mg」の商品名で９月に発売されました。

承認時までに実施された本剤単独投与の臨床試験では，副作用（臨床検査値の変動を含む）は798例中462例（57.89％）に認められました。主なものは，ＡＬＴ（ＧＰＴ）増加148例（18.55％），ＡＳＴ（ＧＯＴ）増加132例（16.54％）等でした。また，メトトレキサート（６～８mg/週）併用投与の臨床試験では，副作用（臨床検査値の変動を含む）は232例中136例（58.62％）に認められました（投与52週後）。主なものは，ＡＳＴ（ＧＯＴ）増加27例（11.64％），ＡＬＴ（ＧＰＴ）増加27例（11.64％）等でした。なお，重大な副作用としては，肝機能障害，黄疸，汎血球減少症，白血球減少，消化性潰瘍，間質性肺炎，感染症が報告されています。

ゴナックス皮下注用80ｍｇ・120ｍｇ（一般名：デガレリクス酢酸塩）

デガレリクス酢酸塩は，スイスのFerring Pharmaceuticals社が見出したＧｎＲＨ（性腺刺激ホルモン放出ホルモン）アンタゴニストです。直接ＧｎＲＨ受容体と可逆的に結合することにより，下垂体からの黄体形成ホルモン，卵胞刺激ホルモンの分泌を直ちに抑制します。その結果，ＧｎＲＨアゴニストと異なりテストステロンの一過性の上昇（テストステロンサージ）を引き起こすことなく，投与開始後直ちに精巣からのテストステロン産生を抑制します。また，デガレリクス酢酸塩は，皮下投与することにより，投与部位で自然にゲル状のデポを形成する物理化学的性質を有しており，形成されたゲル状のデポからデガレリクス酢酸塩が持続的に放出されることにより，血清テストステロン低下作用が長時間持続します。この下垂体性腺系機能抑制作用により，前立腺癌に対する抗腫瘍効果を発揮します。

本剤は世界25か国で発売されています（2011年９月現在）。本邦においては，2012年６月に「前立腺癌」を効能・効果として承認されました。

国内臨床試験の安全性評価症例数273例中，臨床検査値異常を含む副作用発現症例は228例（83.5％）であり，主なものは注射部位疼痛（34.4％），注射部位硬結（33.7％），注射部位紅斑（32.2％），ほてり（27.8％）等でした（承認時）。また，重大な副作用として，間質性肺疾患，肝機能障害，糖尿病増悪，心不全，血栓塞栓症が報告されています。

〈参考資料〉

ケアラム錠25mg，コルベット錠25mg，
ゴナックス皮下注用80mg・120mg
各添付文書・インタビューフォーム

（宮崎県薬剤師会薬事情報センター
永井　克史）

日州医事投稿についてのお知らせ

日州医事では，会員の皆様から随筆，旅行記，ご意見などの投稿を随時受け付けております。以下の要領に依ってご投稿ください。

1．投稿項目と原稿字数
　1）随想・随筆・旅行記・短歌・俳句・川柳・詩：4,000字以内
　　写真・図（カラー印刷はできません）も含めて上記の字数以内（写真1枚は約300字に相当）。投稿者の顔写真もお送りください。
　2）私の本・私が推薦する本：800字以内
　　書物の紹介，読みどころ，執筆の思い出・思い入れなど。投稿者の顔写真もお送りください。また，書物の表紙写真も掲載いたしますので，著者の出版本も併せてお送りください（日州医事発行後返却いたします）。
　3）ニューメンバー：1,200字以内
　　新入会員の紹介欄。氏名・住所（市町村名）・専門科目・抱負・趣味・家族構成・略歴・エピソード等。投稿者の顔写真もお送りください。
　4）その他
　　日州医事に対するご意見やご感想等をお寄せください。カット・イラストも随時募集しております。
2．投稿方法：原稿は，メールの他，FAX，郵送等にても受け付けております。メールの場合はワードまたはテキスト形式で保存し，下記送付先へお送りください（投稿項目，タイトル，所属郡市医師会名と氏名・連絡先を必ず明記してください）。なお，県医師会で原稿用紙を用意しておりますが，市販の原稿用紙やワープロ印字のものでも結構です。
3．原稿は原則として未発表のものに限ります。ご投稿の原稿が他誌に掲載，または掲載中の場合はその旨お知らせください。和文横書きとし（短歌・俳句は除く），なるべく常用漢字，現代かなづかいとしてください。
4．投稿後の加筆修正はご遠慮ください。
5．原稿の内容については，人権・プライバシーに充分な配慮をお願いします。
6．著作権・版権等：著作権・版権が発生する他誌（紙）掲載記事，写真，絵画，歌詞・楽譜，印刷物（パンフレット，ポスター，チラシ他）等を引用・転載する際は，必ず著作権所有者・版元の許可を取り，出典・収蔵元を明記したうえでご投稿ください。出典不明の場合は掲載できない場合もあります。
7．原稿の採否・掲載月：広報委員会にご一任ください。
8．原稿校正：寄稿者へゲラ刷りをお送りし，初校校正をしていただきます。
　ただし，広報委員会において，原稿の主旨を変えない範囲で，誤字・脱字の訂正や句読点の挿入をする場合があります。
9．投稿原稿は原則としてお返しいたしません。
10．特にお申し出のない限りホームページに掲載されますので，予めご了承ください。
11．広告は，本誌に適当と思われるものを掲載いたします。

【原稿送付・問合せ先】
宮崎県医師会広報委員会
E-mail：genko@miyazaki.med.or.jp
〒880-0023　宮崎市和知川原1丁目101
FAX　0985-27-6550　TEL　0985-22-5118

本誌記事に対するご意見やご要望，アイデアなどもお待ちしております。

日州医事は，会員以外（マスコミ・行政・図書館等）にも配付しています。

ご 案 内

第112回九州医師会総会・医学会

会　期　平成24年11月24日(土)・25日(日)
会　場　シーガイアコンベンションセンター及び周辺施設
日　程　24日(土)　九州医師会連合会総会・医学会
　　25日(日)　分科会・記念行事

九州医師会総会・医学会

日　時　平成24年11月24日(土)　13：00～16：10

1．九州医師会連合会総会　13：00～13：50
　1）開会の辞
　2）国歌斉唱
　3）黙　　祷
　4）九州医師会連合会長挨拶
　5）来賓祝辞
　6）祝電披露
　7）宣言決議
　8）次回開催担当県医師会長挨拶
　9）閉会の辞

2．九州医師会医学会　　14：00～16：10

特別講演Ⅰ（14：00～15：00）

演　題「未知のペプチド・ホルモン探索から医薬品の創生まで
－LH -RH，ANP そして BNP －」

講　師　宮崎大学名誉教授
　　国立循環器病研究センター名誉所長　　松尾　壽之　先生

座　長　宮崎大学医学部内科学講座
　　循環体液制御学分野教授　　北村　和雄　先生

特別講演Ⅱ（15：10～16：10）

演　題「初の国際人・伊東マンショの生きた時代
～没後400年の節目を記念して～」

講　師　宮崎大学教育文化学部教授　　竹井　成美　先生

座　長　宮崎県医師会長　　稲倉　正孝

分　科　会

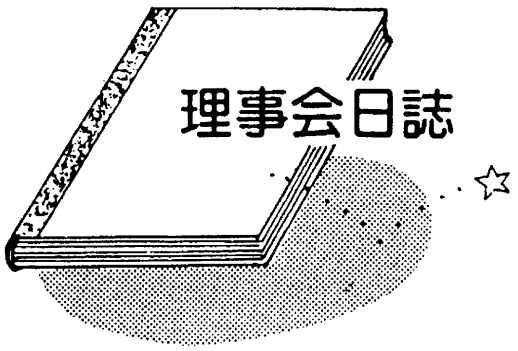
場所：シーガイアコンベンションセンター（宮崎市山崎町浜山　☎ 0985-21-1155）

学　会　名	会　　場
第１分科会　内科学会 （第299回日本内科学会九州地方会） （第46回日本内科学会九州支部生涯教育講演会）	11月25日(日)　９：00～17：00 ４Ｆ　天葉・天樹・クリスタル・マーブル・アンバー
第２分科会　小児科学会 （第65回九州小児科学会）	11月25日(日)　９：00～ ４Ｆ　天玉
第３分科会　外科学会	11月25日(日)　９：00～12：00 ２Ｆ　オーチャード
第４分科会　整形外科学会 （日本整形外科学会教育研修認定学会）	11月24日(土)　16：30～19：15 ２Ｆ　ファウンテン
第５分科会　産科婦人科学会	11月25日(日)　10：00～14：10 ２Ｆ　ファウンテン
第６分科会　東洋医学会 （第38回日本東洋医学会九州支部学術総会）	11月25日(日)　９：00～16：15 ４Ｆ　天蘭・アイボリー
第７分科会　産業医学会	11月25日(日)　９：30～15：00 ４Ｆ　天瑞

記　念　行　事

場所：シーガイアコンベンションセンター及び周辺施設（宮崎市山崎町浜山）

大　会　名	会　　場
ゴルフ大会 （第52回九州メディカルゴルフ大会）	11月25日(日)　７：30～ フェニックスカントリークラブ（☎ 0985-21-1301）
サッカー大会 （第34回全九州ドクターズサッカー大会）	11月25日(日)　９：00～ シーガイアスクエア１（☎ 0985-21-1111）
走ろう会大会	11月25日(日)　10：00～11：00 フェニックス・シーガイア・リゾート（☎ 0985-21-1111）
囲碁大会 （第32回九州医師囲碁大会）	11月25日(日)　10：00～ シーガイアコンベンションセンター（☎ 0985-21-1155）
テニス大会 （第94回全九州医師テニス宮崎大会）	11月４日(日)　９：00～17：00 ※開催日にご注意ください シーガイアテニスアカデミー（☎ 0985-21-1311）



平成24年８月７日㈫第12回常任理事協議会

医師会関係

（議決事項）

１．８/30㈭（日南）社会保険医療担当者（医科）の個別指導の実施について

　１医療機関を対象に行われる病院の個別指導で，上田理事を立会人として派遣することが承認された。

２．10/4㈭・５㈮（日医）第56回社会保険指導者講習会の受講申込みについて

　「実践　小児・思春期医療」をメインテーマに開催される講習会で，講習会の参加者が本県での復講の講師を兼ねることから，その人選等を上田理事に一任することが承認された。

３．本会外の役員等の推薦について

①県障がい者虐待防止・権利擁護連絡会議における委員の推薦について

→本年10月１日に障害者虐待防止，障害者の養護者に対する支援等に関する法律が施行されることに伴い設置される連絡会議で，石川常任理事を推薦することが承認された。

②宮崎地方労働審議会委員（第６期）の推薦及び就任変更について

→前任者の辞任申し出による後任の推薦依頼で，牛谷常任理事を推薦することが承認された。なお，任期は残任期間の平成25年９月30日までとなる。

４．後援・共催名義等使用許可について

①10/26㈮（宮崎市民文化ホール）第60回精神保健福祉全国大会の後援について

→「こころを支える～災害時の心のケアと地域の絆～」をテーマに開催される全国大会で，名義後援を行うことが承認された。

②H25.9/22㈰（シーガイア）第19回日本警察医会総会・学術講演会における共催について

→法医学知識の向上と警察職員及び留置人の健康管理業務の円滑な運営に寄与することを目的に開催される学術講演会等で，共催することが承認された。

（報告事項）

１．週間報告について

２．７月末日現在の会員数について

３．８/4㈯（福岡）九医連常任委員会について

４．８/1㈬（県医）個別指導に関する打合せについて

５．８/2㈭（ひまわり荘）社会保険医療担当者（医科）の個別指導について

６．８/4㈯・5㈰（福岡）九州ブロック学校保健・学校医大会関連行事について

７．８/6㈪（県医）宮崎市郡医師会予防接種勉強会について

８．７/26㈭（日医）都道府県医師会救急災害医療担当理事連絡協議会について

９．７/30㈪（県医）生活習慣病検診各部会長連絡協議会について

10．８/7㈫（県医）県訪問看護ステーション連絡協議会役員会について

11．８/2㈭（県医）病院部会・医療法人部会合同理事会について

12．８/3㈮（福岡）日本スポーツ振興センター福岡支所業務運営委員会について

13．８/7㈫（県医）治験審査委員会について

医師連盟関係
（議決事項）
1．9 /8(土)（県立芸術劇場）「自由民主党宮崎県政経セミナー2012」セミナー券の販売について
　前自民党政調会長の石破茂衆議院議員らを講師に招き開催される政経セミナーで協力することが承認された。
2．9 /19(水)（宮観ホテル）三師会懇談会の開催について
　県薬剤師会の担当で開催される懇談会で，稲倉委員長，河野・富田・立元・佐藤・池井常任執行委員が出席することが承認された。

平成24年８月21日(火)第13回常任理事協議会

医師会関係
（議決事項）
1．9 /6(木)（西諸）社会保険医療担当者（医科）の個別指導の実施について
　１医療機関を対象に行われる病院の個別指導で，池井常任理事を立会人として派遣することが承認された。
2．10/28(日)（日医）第127回日本医師会臨時代議員会並びに第71回日本医師会臨時総会の開催について
　平成23年度決算と公益社団法人への移行認定及び定款・諸規程の変更を協議する代議員会で，河野・富田副会長，立元・佐藤常任理事の出席が承認された。
3．平成24年度公衆衛生事業功労者に対する厚生労働大臣表彰候補者の推薦について
　過去に，公衆衛生事業に関する功績により県知事，日本公衆衛生協会長等の表彰を受け，かつ健康増進，疾病予防，生活衛生，衛生教育等の諸事業における功績が顕著な方に贈られる表彰で３名の先生を推薦することが承認された。
4．本会外の役員等の推薦について
①宮崎県医療審議会委員の推薦について
→設置根拠を医療法第71条の２に置き，都道府県における医療提供体制の確保に関する重要事項を調査審議するため設置される審議会で，任期満了に伴う委員の推薦依頼があり，引き続き稲倉会長と河野副会長を推薦することが承認された。
5．後援・共催名義等使用許可について
①９ /8(土)（サンホテルフェニックス）市民公開講座「医療と消費税」の開催に伴う後援依頼について
→シンポジウムの座長に尼崎中央病院の吉田静雄先生を招き開催される市民公開講座で，県医師会が設置する部会の主催であることから協力することが承認された。
②９ /29(土)（宮崎市民プラザ）平成24年度日本肝臓学会肝がん撲滅運動市民公開講座への後援のお願いについて
→「やさしい肝臓病のお話」と題し４つの講演会と個別医療相談で構成される市民公開講座で，名義後援を行うことが承認された。
③10/13(土)（カルチャープラザのべおか）「目の健康講座」ご後援（名義使用）許可のお願い
→「目の愛護デー」事業の一環として，一般の方々を対象に開催される健康講座で，名義後援を行うことが承認された。
6．11/10(土)（熊本）第43回全国学校保健・学校医大会の出席者について
「子どもたちの健やかな成長を願って」をメインテーマに開催される全国大会で，稲倉会長，富田副会長，佐藤常任理事が出席することが承認された。

7．平成24年度広域予防接種業務委託契約の変更について

平成24年7月31日の予防接種法実施規則等の改正に伴い，9月からポリオワクチンが生から不活化になるため，広域予防接種業務についても契約を変更し対応することが承認された。

8．「医療従事者のための英語講座（中級）」について

外国人が医療機関を受診する際に生じる言葉の問題を解消するため9月～10月にかけて全5回開催する英語講座で，例年通り共催することが承認された。

9．その他

①准看護師養成について

→報告3の中四九地区医師会看護学校連絡協議会に関連し，改めて准看護師養成の重要性を認識し補助金を続けること並びに准看護師試験日を看護師国家試験日に重ねないこと等の要望を，9月に開催される九医連常任委員会や8月23日に開催予定の県議会地域医療対策特別委員会調査の際に行うことが提案され承認された。

（報告事項）

1．週間報告について

2．8/8㈬（日医）日医有床診療所に関する検討委員会について

3．8/18㈯・19㈰（鹿児島）中四九地区医師会看護学校連絡協議会について

4．8/18㈯（県医）学校医部会総会・医学会について

5．8/9㈭（県婦人会館）県がん対策推進協議会について

6．8/9㈭（ひまわり荘）社会保険医療担当者（医科）の個別指導について

7．8/20㈪（県庁）県歯科保健推進協議会について

8．8/18㈯（県医）産業医研修会（前期）について

医師連盟関係

（議決事項）

1．第2回「日医連医政活動研究会」各ブロックの担当について

第2回の研究会は各ブロックで開催することとなっており，今年度は九医連を宮崎県が担当することから，ブロック全体の幹事長を吉田執行委員，副幹事長を清山知憲先生，担当役員を池井常任執行委員とすることが提案され承認された。

平成24年8月28日㈫第6回全理事協議会

医師会関係

（議決事項）

1．9/20㈭（ひまわり荘）個別指導（医科）の実施に係る立会いについて

3医療機関を対象に行われる個別指導で，立元常任理事を立会人として派遣することが承認された。

2．9/20㈭（ひまわり荘）集団的個別指導（医科）の実施に係る立会いについて

39医療機関を対象に行われる講義形式の集団的個別指導で，河野副会長を立会人として派遣することが承認された。

3．後援・共催名義等使用許可について

①11/7㈬（メディキット県民文化センター）平成24年度宮崎県社会福祉大会に対する後援名義の使用許可について

→社会福祉活動の発展に功労のあった方々の顕彰並びに地域福祉の更なる充実に向けた啓発を目的に開催される大会で名義後援を行うことが承認された。

②10/28㈰（熊本）第3回九州在宅医療推進フォーラムの開催の後援のお願いについて

→「地域で暮らす」をテーマに開催される

講演及びシンポジウムで，名義後援を行うことが承認された。

4．本会外の役員等の推薦について

①宮崎県腎臓バンク理事の推薦について

→来年４月の公益財団法人移行に向け，役員構成を変更するもので，河野副会長を推薦することが承認された。

5．宮崎県医師会会員名簿の作成について

隔年で作成している会員名簿について，個人情報保護の観点から，掲載項目について会員の意向を確認した上で，前回同様の形で作成することが承認された。

6．11/17(土)(福岡)平成24年度九州学校検診協議会第２回専門委員会の開催について

本会から，佐藤常任理事，髙村一志先生，宮田純一先生，澤田浩武先生が出席することが承認された。

7．11/17(土)(福岡)九州各県医師会学校保健担当理事者会の開催について

九州学校検診協議会専門委員会に引き続き開催される担当理事者会で，佐藤常任理事が出席することが承認された。

8．業務委託について

①平成24年度緩和ケア研修事業に係る業務の委託契約について

→緩和医療に取り組む医療従事者を対象にした研修会を中心とする事業で，委託契約を締結することが承認された。

9．10/11(木)(日医)第34回産業保健活動推進全国会議の開催について

池井常任理事と県医師会事務局及び県内４か所の地域産業保健センターのコーディネータが出席することが承認された。

10．９/29(土)(愛知)第62回全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会の開催について

牛谷常任理事が出席することが承認された。

11．９・10月の行事予定について

９月の追加行事と10月の行事について確認が行われた。

（報告事項）

1．週間報告について

2．８/8(水)(宮観ホテル)宮崎政経懇話会合同特別例会について

3．８/8(水)(支払基金)支払基金幹事会について

4．８/21(火)(日医)日医理事会について

5．８/27(月)(県庁)県立病院事業評価委員会について

6．８/28(火)(九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について

7．８/23(木)(県医)県議会地域医療対策特別委員会調査について

8．８/22(水)(日医)日医周産期・乳幼児保健委員会について

9．第13回宮崎県医師会医家芸術展について

10．８/5(日)(福岡)日本プライマリ・ケア連合学会九州支部代表世話人会について

11．８/11(土)(県医)県プライマリ・ケア研究会総会・講演会について

12．８/9(木)(県医)宮日「きゅんと」記事に対する打合せについて

13．８/2(木)(ゆう)広報委員会について

14．８/27(月)(県医)広報委員会について

医師国保組合関係

（報告事項）

1．８/25(土)(鹿児島)全国国保組合協会九州支部総会について

医師協同組合・エムエムエスシー関係

（医協理事・運営委員合同協議会）

医師連盟関係

（議決事項）

1．衆議院小選挙区担当者のご推薦について

各小選挙区毎に担当責任者及び担当代行責任者を選任し，解散総選挙に備え準備を進めるもので，人選及び選出方法について，会議等を開催し検討することが承認された。

県医の動き

（９月）

1	新生児蘇生法講習会 宮崎歯科技術専門学校創立50周年記念祝宴（会長）
1～2	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（福岡） （金丸理事）
3	看護師等医療従事者の「雇用の質」の向上のための取組に関する企画委員会 医学会誌編集委員会（富田副会長他）
4	県医療計画策定委員会（富田副会長他） 治験審査委員会（富田副会長他） 第14回常任理事協議会（会長他）
5	日医地域医療対策委員会（日医）（富田副会長）
6	社会保険医療担当者（医科）の個別指導 （池井常任理事） 地域医療現場における働きやすい環境を考える会検討会（荒木常任理事） 県糖尿病対策推進会議幹事会（会長他） 県産婦人科医会医療対策委員会（濱田常任理事）
7	産業医研修会 女性医師委員会（会長他）
8	九州医師協同組合連合会監査会・理事会（福岡） （立元常任理事） 「医療と消費税」市民公開講座（会長他） 園医部会総会・研修会（富田副会長他）
10	宮崎空港消火救難救急医療緊急計画連絡協議会 （事務局） 健康スポーツ医学委員会（河野副会長他） 九州医師協同組合連合会通常総会準備会（会長他）
11	第15回常任理事協議会（会長他） 治験理事会（富田副会長他） 各郡市医師会長協議会（会長他）
12	支払基金幹事会（会長）
13	日本学校保健会評議員会・理事会（東京）（会長） 産業医研修会 県産婦人科医会常任理事会（濱田常任理事）
14	広報委員会（荒木常任理事他）
15	産業医研修会（前期）（矢野理事） 県産科婦人科学会・県産婦人科医会市民公開講座（濱田常任理事） 県産婦人科医会秋期定時総会（濱田常任理事） 中村都英教授就任披露パーティ（会長）
18	日医理事会（日医）（会長） 医協打合会（立元常任理事） 第16回常任理事協議会（河野副会長他）
19	全体課長会（事務局） 三師会懇談会（会長他）
20	社会保険医療担当者（医科）の個別指導 （立元常任理事） 社会保険医療担当者（医科）の集団的個別指導 （河野副会長）
21	宮崎空港航空機事故消火救難総合訓練 （古賀常任理事）
23	日本リウマチ財団宮崎地区リウマチ教育研究会 （会長）
24	地域産業保健センターコーディネーター会議 （事務局） 県有床診療所協議会役員会（会長他） 広報委員会（荒木常任理事他） 全国有診総会宮崎大会反省会（会長他）
25	医協理事会（会長他） 第７回全理事協議会（会長他） 医協理事・運営委員合同協議会（会長他）
26	労災診療指導委員会（河野副会長） 九州各県内科医会連絡協議会実行委員会 県産婦人科医会子宮がん検診・在宅医に関する会議（濱田常任理事）
27	社会保険医療担当者（医科）の個別指導 （石川常任理事） 産業医研修会 自賠委員会（牛谷常任理事） 土曜会（報道機関支局長の会）との懇談会（会長他） 損害保険医療協議会（牛谷常任理事）
28	県地域医療支援機構代表者会議（会長）
29	九医連常任委員会（会長） 九医連各種協議会 全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会 （愛知） 九医連各種協議会報告会
30	九医連親善ゴルフ大会

ドクターバンク情報

（無料職業紹介所）　　平成24年９月18日現在

本会では，会員の相互情報サービスとしてドクターバンク（求人・求職等の情報提供）を設置しております。登録された情報は，当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。
現在，下記のとおりの情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。
お申込み，お問合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。
また，宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

１．求職者登録数　　５人

１）男性医師求職登録数　　４人　　（人）

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
内科	3	2	1
放射線科	1	1	0

２）女性医師求職登録数　　１人

２．斡旋成立件数　41人
１）男性医師　　30人　　２）女性医師　　11人

３．求人登録　　88件　　318人　　（人）

募集診療科目	求人数	常勤	非常勤
内科	97	71	26
外科	31	25	6
整形外科	21	17	4
精神科	21	16	5
循環器科	16	16	—
脳神経外科	12	9	3
消化器内科	12	12	—
麻酔科	9	6	3
眼科	9	7	2
放射線科	11	10	1
小児科	6	5	1
呼吸器内科	5	5	—
リハビリテーション科	5	3	2
血液内科	3	3	—
神経内科	6	6	—
救命救急科	3	3	—
健診	3	2	1
産婦人科	2	2	—
泌尿器科	1	1	—
検診	2	—	2
皮膚科	2	2	—
人工透析	2	2	—
耳鼻咽喉科	2	2	—
その他	37	34	3
合計	318	259	59

求　人　登　録　者（公開）

※求人情報は，申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合，
無料職業紹介所（ドクターバンク）へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は，公開について同意をいただいております。

登録番号	施　設　名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
150005	医）りっか会ピア・メンタル ささき病院	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
160011	赤十字血液センター	宮崎市	検診	2	非常勤
160013	医）三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	脳，整，放，麻，内	8	常勤・非常勤
160017	医）ブレストピア ブレストピアなんば病院	宮崎市	乳腺，内	3	常勤
160020	財）弘潤会 野崎病院	宮崎市	精，内，放	3	常勤
160031	医）同心会 古賀総合病院	宮崎市	呼，神内，眼，耳，総診，呼外，循，臨病	9	常勤
160033	医）如月会 若草病院	宮崎市	内，精	3	非常勤
170046	医）社団善仁会 市民の森病院	宮崎市	内，消内，内泌糖内，呼，放，リウマチ	10	常勤・非常勤
170048	医）慶明会 けいめい記念病院	国富町	内，眼	2	常勤
170052	医）春光会	宮崎市	外，内	3	常勤
180061	医）あいクリニック	宮崎市	精	1	非常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内，神内，整	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内	3	常勤
190094	医）耕和会 迫田病院	宮崎市	整，内，外	7	常勤・非常勤
190095	医）慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	2	常勤・非常勤
190096	医）晴緑会 宮崎医療センター病院	宮崎市	消化，外，総内，麻，放，精，整，循	13	常勤・非常勤
200104	医）社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	内，外，救急，化療，リハ	6	常勤
200105	医）誠友会 南部病院	宮崎市	内，外，放	3	常勤
210110	医）幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮崎市	内，リハ	5	常勤・非常勤
220126	八代医院	宮崎市	内	1	非常勤
230128	医）真愛会 高宮病院	宮崎市	内	1	常勤
230132	医）康友会 青島クリニック	宮崎市	内	1	常勤
230134	医）慈光会 宮崎若久病院	宮崎市	精	2	常勤
230139	介護老人保健施設サンフローラみやざき	国富町	内，外	2	常勤
230140	医）将優会 クリニックうしたに	宮崎市	外，内，整，家庭医，総合臨床	1	常勤
240141	医）博愛社 佐土原病院	宮崎市	内	1	非常勤
160008	医）正立会 黒松病院	都城市	内，泌	2	常勤
160010	特医）敬和会 戸嶋病院	都城市	内，老内	2	常勤
160018	医）宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	内，救急，放射，脳外，外，総合	8	常勤
170042	医）豊栄会 豊栄クリニック	都城市	内，老内，精	3	常勤
170056	医）社団アブラハムクラブ ベテスダクリニック	都城市	循内，脳外，呼，神内	5	常勤
170057	医）清陵会 隅病院	都城市	内，外，整	3	常勤
180064	国立病院機構都城病院	都城市	消内，血内，循，内，脳，産婦，耳鼻	9	常勤
180069	社）八日会 大悟病院	三股町	精，内	2	常勤
180081	医）恵心会 永田病院	都城市	精	1	常勤
190092	都城市郡医師会病院	都城市	内，呼	4	常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
190093	社)八日会 藤元早鈴病院検診センター	都城市	内	2	常勤・非常勤
210108	特医)敬和会 みまた病院	三股町	内,消内,循,皮,整,婦,小,呼,放	10	常勤
210113	医)邦楽会 河村医院	都城市	内	1	常勤
210114	社)八日会 藤元病院	都城市	精	2	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都城市	外,内,麻	9	常勤・非常勤
230133	介護老人保健施設すこやか苑	都城市	不問	1	常勤
230135	医)廣師会 信愛医院	都城市	内	1	常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都城市	内	1	常勤
240142	医)魁成会 宮永病院	都城市	内,リハビリ	2	常勤
160012	医)伸和会 共立病院	延岡市	外,整外,皮,放,内,肝外	6	常勤
160021	医)建悠会 吉田病院	延岡市	精	2	常勤
160034	特医)健寿会 黒木病院	延岡市	外,消内,緩ケア	4	常勤
160036	医)久康会 平田東九州病院	延岡市	内,外麻,精,神内,脳神経,老施,心内	5	常勤・非常勤
190086	早田病院	延岡市	内	1	常勤
200100	医)育生会 井上病院	延岡市	産婦,内	2	常勤
200102	延岡市医師会病院	延岡市	消内	3	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延岡市	内,小,外,整	8	常勤・非常勤
210112	医)嘉祥会 岡村病院	延岡市	内	3	常勤・非常勤
160039	医)誠和会 和田病院	日向市	外,内,整,透	7	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門川町	内	3	常勤
230130	医)ラポール向洋	日向市	内	1	常勤
230131	医)向洋会 協和病院	日向市	内	1	常勤
160006	都農町国保病院	都農町	内,放,外,小	4	常勤
160023	医)宏仁会 海老原総合病院	高鍋町	整,内,心内,眼,健診,循,脳	16	常勤・非常勤
170058	国立病院機構宮崎病院	川南町	呼,循,消内,外	8	常勤
180077	医)聖山会 川南病院	川南町	眼,麻,脳	10	常勤・非常勤
160024	医)隆徳会 鶴田病院	西都市	内,外,整	6	常勤・非常勤
150002	医)慶明会 おび中央病院	日南市	内	1	常勤
150003	医)同仁会 谷口病院	日南市	精	1	常勤
160022	医)愛鍼会 山元病院	日南市	内,消内,神内	3	常勤
160037	医)十善会 県南病院	串間市	精,内	2	常勤・非常勤
170047	日南市立中部病院	日南市	内,神内,整,外	4	常勤
180071	串間市民病院	串間市	腎内	1	常勤
220124	医)月陽会 きよひで内科クリニック	日南市	内	4	常勤・非常勤
230129	医)秀英会 英医院	串間市	内	1	常勤
230138	小玉共立外科	日南市	不問	2	常勤・非常勤
160019	医)相愛会 桑原記念病院	小林市	内	2	常勤・非常勤
170043	医)和芳会 小林中央眼科	小林市	眼	1	常勤
180067	小林市立病院	小林市	内,循,呼,血内,健診,放,小	11	常勤
180076	医)友愛会 園田病院	小林市	外,内,整	4	常勤
190090	特医)浩然会 内村病院	小林市	精	2	常勤
190091	医)友愛会 野尻中央病院	小林市	整,内	4	常勤・非常勤
170049	五ヶ瀬町国保病院	五ヶ瀬町	整	1	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内,神内,循内	3	常勤・非常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内,整	2	非常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成 24年９月 18日現在

１．譲渡物件	①　宮崎市阿波ヶ原町前田2633番，2634番 土地のみ：593.57坪（2022.17㎡）
２．賃貸物件	①　宮崎市曽師町209-3（旧　田川内科医院跡地） 建物：鉄筋コンクリート造２階建 １階　183.35㎡，　２階　166.69㎡ ※駐車場：10台分
	②　延岡市大門町188-1（旧　白坂内科医院跡地） 建物：鉄筋造平屋建　205㎡ ※駐車場：10台分

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

１．取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
２．紹介受付は，月～金の午前９時から12時及び13時から17時です。
３．申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
４．ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
５．斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先　ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原１丁目101番地（宮崎県医師協同組合）
TEL　0985-23-9100(代)・FAX　0985-23-9179
E-mail：isikyou@miyazakimed.or.jp

宮崎県医師会行事予定表

平成24年10月1日現在

10月

1	月	14：00 県准看護師試験問題調整委員会 19：00 学術生涯教育委員会
2	火	18：00 治験審査委員会 19：00 第17回常任理事協議会
3	水	19：00 九州医師協同組合連合会親善観光準備会 19：00 県プライマリ・ケア研究会学術広報委員会
4	木	10：00 (日医)日医社会保険指導者講習会 13：00 県国民保護共同実動訓練グループ会議(事務局) 18：00 県健康づくり協会評議員会 19：00 医療安全対策セミナー 19：00 自賠委員会小委員会 19：30 健康教育委員会
5	金	10：00 (日医)日医社会保険指導者講習会 15：00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会 19：00 医師国保理事会
6	土	9：00 県災害医療従事者研修会(事務局) 9：45 全国医師会勤務医部会連絡協議会 15：00 県警察医会総会
7	日	
8	月	(体育の日)
9	火	14：00 地方公務員災害補償基金宮崎県支部審査会 19：00 第18回常任理事協議会
10	水	16：00 支払基金幹事会
11	木	10：30 (日医)産業保健活動推進全国会議 14：00 産業医研修会 19：00 県警察医会協議会 19：00 県内科医会学術委員会 19：30 県産婦人科医会常任理事会
12	金	
13	土	9：00 ICLS研修会 13：00 他職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業における都道府県リーダー研修 15：00 日本臨床内科医会九州ブロック会議 15：00 産業医研修会 16：10 九州各県内科医会連絡協議会 16：10 九州各県内科審査委員懇話会 16：40 県小児科医会秋季総会・学術講演会 19：00 九州各県内科医会連絡協議会懇親会
14	日	8：30 ACLS研修会 9：00 他職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業における都道府県リーダー研修
15	月	18：30 県産業保健連絡協議会等 19：30 広報委員会
16	火	13：30 医療機器開発／医療サービスに繋がるIT×医療のためのネットワーク形成事業検討委員会 14：00 (日医)日医理事会 19：00 第19回常任理事協議会
17	水	9：10 全体課長会（事務局） 14：00 (日医)日医有床診療所に関する検討委員会 18：00 県健康づくり協会理事会 19：00 県うつ病医療連携検討部会
18	木	13：00 社会保険医療担当者(医科)の個別指導 14：30 (日医)日医公衆衛生委員会 19：00 産業医研修会
19	金	13：30 全国医師国保組合連合会全体協議会 18：30 治験セミナー
20	土	8：00 全国医師国保組合連合会全体協議会・観光 14：30 産業医研修会 16：30 九州医師協同組合連合会通常総会
21	日	九州医師協同組合連合会通常総会関連行事 9：00 全国医師国保組合連合会全体協議会・観光
22	月	19：00 広報委員会
23	火	18：20 医協打合会 19：00 第20回常任理事協議会
24	水	14：00 (日医)日医地域医療対策委員会 14：00 (日医)日医周産期・乳幼児保健検討委員会
25	木	15：00 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会 19：00 宮崎市郡医師会例会・しののめ医学会・特別講演会
26	金	10：00 精神保健福祉全国大会 15：00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会 18：00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会
27	土	10：00 国民保護共同実動訓練 15：00 日医社会保険指導者講習会復講
28	日	9：00 (日医)九州ブロック日医代議員連絡会議 9：30 (日医)日医臨時代議員会・臨時総会
29	月	18：00 医療機能情報提供システム選定委員会 19：00 高次脳機能障がい講演会
30	火	18：15 医協理事会 19：00 第８回全理事協議会 終了後 医協理事・運営委員合同協議会
31	水	15：00 労災診療指導委員会 18：00 県がん対策推進協議会

国保審査

社保審査

※都合により，変更になることがあります。

宮崎県医師会行事予定表

平成24年10月1日現在

11月

1	木	13：00 (日医)日医設立記念医学大会 13：30 宮大経営協議会 19：00 宮大経営協議会学外委員懇談会
2	金	
3	土	(文化の日) 県医親善ゴルフ大会 13：30 県訪問看護ステーション連絡協議会総会・研修会 14：00 全国医師協同組合連合会記念総会
4	日	全国医師協同組合連合会記念総会関連行事 9：00 九医学記念行事・テニス
5	月	19：00 産業医研修会 19：00 生活習慣病検診従事者研修会 19：00 県内科医会誌編集委員会
6	火	18：00 治験審査委員会 19：00 第21回常任理事協議会
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	10：00 全国学校保健・学校医大会
11	日	10：00 世界糖尿病デー市民公開講座
12	月	
13	火	18：30 医療現場のワークライフバランスセミナー 19：00 第22回常任理事協議会
14	水	16：00 支払基金幹事会
15	木	19：30 広報委員会
16	金	19：00 産業医研修会
17	土	15：00 九州学校検診協議会専門委員会 17：00 九州各県学校保健担当理事者会
18	日	
19	月	
20	火	13：30 (日医)日医理事会 15：00 (日医)都道府県医師会長協議会 19：00 第23回常任理事協議会
21	水	9：10 全体課長会(事務局)
22	木	
23	金	(勤労感謝の日) 16：00 九医連常任委員会 17：00 九医連臨時委員総会
24	土	10：00 九医連委員・九州各県医師会役員合同協議会 13：00 九州医師会総会・医学会
25	日	九医学分科会・記念行事
26	月	19：00 広報委員会
27	火	18：00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 19：00 第9回全理事協議会
28	水	15：00 労災診療指導委員会
29	木	18：30 宮崎銀行との懇談会
30	金	15：00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会 19：00 生活習慣病検診従事者研修会

国保審査

社保審査

※都合により，変更になることがあります。

医　学　会・講　演　会
日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位・カリキュラムコード（cc）。当日，参加証を交付。
がん検診；各種がん検診登録・指定・更新による研修会。波線；専門研修会以外の産業医研修会。
アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	その他 ※＝連絡先
第11回南那珂感染対策セミナー （1単位） （cc：8，11）	10月2日(火) 18：15～19：30 県立日南病院	アウトブレイクとその対策 宮崎大学医学部附属病院 感染制御部講師　高城　一郎	◇共催 県立日南病院医療連携科 ※大日本住友製薬㈱ ☎0985-29-5855
第74回宮崎市郡医師会心臓病研究会 （1.5単位） （cc：1，10，42）	10月2日(火) 19：00～20：30 宮崎観光ホテル	久留米大学心臓・血管内科の現状 久留米大学心臓・血管内科講師 横山　晋二 PCI後の予後改善を目指す －適切な薬物療法とは－ 同大学病院循環器病センター 教授　上野　高史	◇共催 ※宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119 トーアエイヨー㈱
第14回宮崎「感染と免疫」研究会 （1.5単位） （cc：28，45，46）	10月3日(水) 19：00～21：00 宮崎観光ホテル	感染後咳嗽の診断と治療 倉敷中央病院呼吸器内科主任部長 石田　直	◇共催 宮崎「感染と免疫」研究会 ※大正富山医薬品㈱ ☎092-451-7884
内科医会学術講演会 （1.5単位） （cc：2，74，82）	10月3日(水) 19：00～20：30 宮崎観光ホテル	新時代の高血圧治療 －メタボサルタンへの期待－ 愛媛大学病態情報内科学教授 檜垣　實男	◇共催 宮崎県内科医会 ※日本ベーリンガーインゲルハイム㈱ ☎0985-26-9363

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	そ　の　他 ※＝連絡先
第９回都城イメージカンファランス （1.5単位） （cc：２,73,78）	10月４日㈭ 19：00～20：45 都城ロイヤルホテル	３T MRIによる新しい頭部画像診断法 熊本大学放射線診断学准教授 平井　俊範	◇主催 ※都城イメージカンファランス ☎0986-22-0711 ◇共催 第一三共㈱
日向市東臼杵郡医師会スポーツ医学講座 （１単位） （cc：57,62）	10月５日㈮ 19：00～21：00 ホテルベルフォート日向	いわゆる“肉離れ”について－2012－ 国立スポーツ科学センタースポーツ医学研究部 奥脇　透	◇共催 ※日向市東臼杵郡医師会 ☎0982-52-0222 久光製薬㈱
宮崎県北部Care AF講演会 （１単位） （cc：11,78）	10月５日㈮ 19：00～20：30 ホテルメリージュ延岡	納豆が食べられる！ －新しい抗凝固法への大転換－ 熊本市医師会熊本地域医療センター 循環器内科部長　平井　信孝	◇共催 日本脳卒中協会 日本脳卒中協会宮崎支部 延岡医学会 ※バイエル薬品㈱ ☎080-1478-2196 ◇後援 延岡内科医会
宮崎県警察医会総会・特別講演会 （２単位） （cc：１,２,３,４）	10月６日㈯ 15：20～17：10 宮崎北警察署	ドイツと日本の死因究明制度 宮崎大学医学部法医学助教 小澤　周二 法医解剖（医）のみで死因究明は可能か？ 長崎大学医学部法医学名誉教授 中園　一郎	◇主催 ※宮崎県警察医会 ☎0985-22-5118
宮崎県医師会産業医研修会（生涯研修の専門研修会２単位） （２単位） （cc：５,６,13,69）	10月11日㈭ 14：00～16：00 県医師会館	⑷メンタルヘルス対策 セルフケア－体験：自立訓練法－ 都城新生病院　前原　正法	◇共催 宮崎産業保健推進連絡事務所 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	その他 ※＝連絡先
平成24年度南那珂地区結核専門研修会 （２単位） （cc：46）	10月11日㈭ 19：00～21：00 南那珂医師会館	今後の結核医療のあり方 国立病院機構東広島医療センター 感染症診療部・呼吸器科部長 重藤　えり子	◇共催 ※南那珂医師会 ☎0987-23-3411 日南保健所
日向市東臼杵郡医師会学術講演会 （1.5単位） （cc：18,28,46）	10月11日㈭ 19：15～21：00 ホテルベルフォート日向	呼吸器感染症におけるマクロライドの役割 －インフルエンザ感染症を含めて－ 九州保健福祉大学薬学部教授 佐藤　圭創	◇共催 ※日向市東臼杵郡医師会 ☎0982-52-0222 日向市東臼杵郡薬剤師会 大正富山医薬品㈱
第11回宮崎難治性疼痛研究会 （２単位） （cc：59,61,63）	10月12日㈮ 19：00～21：00 ＭＲＴ-micc 1,000円	頸・肩・腕の痛み －姿勢改善と運動療法の重要性－ 熊本大学整形外科准教授 井手　淳二	◇共催 宮崎難治性疼痛研究会 ※日本臓器製薬㈱ ☎096-386-0441 ◇後援 宮崎県医師会
第11回県北呼吸器カンファレンス学術講演会 （1.5単位） （cc：73,79,80）	10月12日㈮ 19：00～20：30 ホテルメリージュ延岡	ＩＣＳ/ＬＡＢＡ配合剤による喘息の治療 国立病院機構福岡病院臨床研究部長 下田　照文	◇共催 県北呼吸器カンファレンス 延岡医学会 ※グラクソ・スミスクライン㈱ ☎080-1035-5127 ◇後援 延岡内科医会
第44回宮崎県北整形外科医会学術講演会 （１単位） （cc：59,61）	10月12日㈮ 19：30～20：45 マリエールオークパイン延岡	運動器のつらい痛みへのアプローチ 九州労災病院整形外科第二脊椎外科部長 今村　寿宏	◇共催 宮崎県北整形外科医会 延岡医学会 ※ヤンセンファーマ㈱ ☎090-1048-3415

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	そ　の　他 ※＝連絡先
第47回宮崎県スポーツ学会 （３単位） （cc：11,30,32,57,60,61）	10月13日(土) 15：00～18：30 宮日会館 1,000円	競技復帰のためのアスレティックリハビリテーションの実際 国際武道大学体育学部スポーツトレーナー学科教授　山本　利春 スポーツ傷害予防の研究方法と新たな展開 －スポーツ現場ですべきこと－ 大阪大学器官制御外科学講師 中田　研 スポーツでの頭部外傷 －知っておいてほしいこと－ 東京慈恵会医科大学脳神経外科教授　谷　諭	◇共催 宮崎県スポーツ学会 久光製薬㈱ （連絡先） 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986
平成24年度宮崎県小児科医会秋季総会・学術講演会 （2.5単位） （cc：11,12）	10月13日(土) 16：40～19：30 ホテルスカイタワー	“１か月健診”を極める －小児科医のアイデンティティー－ たはらクリニック院長　田原　卓浩 予防接種の最近の話題　不活性ポリオを中心に 国立病院機構福岡病院統括診療部長 岡田　賢司	◇共催 ※宮崎県小児科医会 ☎0985-22-5118 化学及血清療法研究所
宮崎市郡外科医会10月例会 （１単位） （cc：２，９）	10月15日(月) 19：10～20：10 宮崎観光ホテル	宮崎東病院・呼吸器外科の現況 国立病院機構宮崎東病院呼吸器外科部長　枝川　正雄	◇主催 ※宮崎市郡外科医会 ☎0985-53-3434

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	その他 ※＝連絡先
第12回宮崎心エコー研究会 （1.5単位） （cc：5，9，15）	10月18日㈭ 18：45～20：30 宮崎市郡医師会病院 500円	左心機能評価の新しい展開 －from conventional echocardiography to 2D speckle-tracking echocardiography－ 国立病院機構東徳島医療センター 名誉院長　大木　崇	◇共催 ※宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119 第一三共㈱
宮崎県医師会産業医研修会（生涯研修の専門研修会2単位） （2単位） （cc：5，11，69，70）	10月18日㈭ 19：00～21：00 県医師会館（TV会議：都城，延岡，日向，児湯，西都，南那珂，西諸）	⑷メンタルヘルス対策 職場のうつ病対策における問題点 －内科産業医の視点から－ 宮崎産業保健推進連絡事務所 代表　小岩屋　靖	◇共催 宮崎産業保健推進連絡事務所 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会 （1.5単位） （cc：5，13，27）	10月18日㈭ 19：00～ ガーデンベルズ小林	B型肝疾患治療の最近の話題 宮崎大学医学部附属病院 肝疾患センター准教授　永田　賢治	◇主催 ※西諸医師会 ☎0984-23-2113 西諸内科医会 ◇共催 ブリストル・マイヤーズ㈱ ファイザー㈱
第49回都城心臓血管懇話会 （1単位） （cc：73，74）	10月19日㈮ 19：00～20：15 都城ロイヤルホテル	アルドステロンブロッカーの臨床的意義 －降圧効果を超えた作用－ 宮崎大学フロンティア科学実験総合センター教授　加藤　丈司	◇主催 ※都城心臓血管懇話会 ☎0986-22-0711 ◇共催 ファイザー㈱
延岡医学会学術講演会 （1単位） （cc：13，82）	10月19日㈮ 19：20～20：20 ホテルメリージュ延岡	変貌する心血管病の危険因子：久山町研究 九州大学環境医学教授　清原　裕	◇共催 延岡医学会 ※持田製薬㈱ ☎0985-23-3130 ◇後援 延岡内科医会

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	その他 ※＝連絡先
宮崎県医師会産業医研修会（基礎研修・生涯研修の実地研修会２単位） （２単位） （cc：2,9,11,38）	10月20日㈯ 14：30～16：30 県医師会館	（6）作業環境管理・作業管理 騒音測定と評価 久留米大学医学部環境医学教授 石竹　達也 帝京平成大学地域医療学部 作業療法学科教授　原　邦夫	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
第25回宮崎乳腺疾患研究会 （１単位） （cc：1,2）	10月20日㈯ 15：30～17：30 KITEN 500円	進行・再発乳癌に対する内分泌療法と「私のカルテ（熊本版）」を用いた乳がん術後の地域連携 熊本大学医学部附属病院 乳癌分子標的治療学寄附講座 特任准教授　山本　豊	◇共催 宮崎乳腺疾患研究会 ※アストラゼネカ㈱ ☎092-283-8150
第15回ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー （３単位） （cc：9,11,19,61,63,73）	10月20日㈯ 15：45～19：00 シーガイアコンベンションセンター 1,000円	リウマチの手術のポイント 新潟県立リウマチセンター 診療部長　石川　肇 スポーツによる肘関節の障害と治療 昭和大学医学部整形外科学 主任教授　稲垣　克記 肩のリウマチと関節症 獨協医科大学病院リウマチセンター 教授　玉井　和哉	◇共催 ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー 中外製薬㈱ （連絡先） 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986
第149回宮崎県眼科医会講習会 （３単位） （cc：36）	10月20日㈯ 16：30～19：30 ホテルスカイタワー 3,000円 （開業医・勤務医） 2,000円 （公的医療機関勤務医）	抗緑内障点眼薬の角結膜障害 東京大学医学部眼科学講師 臼井　智彦 臨床所見から考える網膜硝子体疾患の病態と治療 大阪医科大学眼科教授　池田　恒彦	◇主催 ※宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015 ◇共催 日本アルコン㈱

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	そ　の　他 ※＝連絡先
宮崎市郡医師会10月例会しののめ医学会・特別講演会 （１単位） （cc：５，８）	10月25日㈭ 19：00～20：00 宮崎観光ホテル	医療安全は「人」の理解から 日本赤十字社九州ブロック 血液センター品質部長　入田　和男	◇主催 ※宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
宮崎市郡産婦人科医会学術講演会 （１単位） （cc：２，９）	10月25日㈭ 19：00～20：00 ホテルプラザ	子宮内膜症に対する薬物療法のトレンド －私はこう治療する－ 慶應義塾大学医学部産婦人科学 専任講師　阪埜　浩司	◇共催 ※宮崎市郡産婦人科医会 ☎0985-53-3434 日本新薬㈱
延岡医学会学術講演会 （1.5単位） （cc：22,50,53）	10月26日㈮ 19：00～20：30 ホテルメリージュ延岡	ここまで進んだ炎症性腸疾患の治療 宮崎大学医学部内科学講座 消化器血液学助教　山本　章二朗	◇共催 延岡医学会 ※田辺三菱製薬㈱ ☎0985-32-9205 ◇後援 延岡内科医会
宮崎インスリン療法研究会 （1.5単位） （cc：８，15,76）	10月27日㈯ 17：00～18：30 KITEN	CGMとインスリン療法(仮) 自治医科大学内分泌代謝学准教授 長坂　昌一郎	◇共催 宮崎インスリン療法研究会 ※日本イーライリリー㈱ ☎092-724-0450
江南医療連携の会・特別講演会 （1.5単位） （cc：62,76）	10月27日㈯ 18：30～20：40 MRT-micc 500円	如何に足を救うか!! －創傷治療からフットケア，歩行まで－ 佐賀大学医学部形成外科診療教授 上村　哲司	◇共催 江南医療連携の会 小野薬品工業㈱ （連絡先） 宮崎江南病院 ☎0985-51-7575

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	そ　の　他 ※＝連絡先
平成24年度九州地区リウマチの治療とケア研修会 （４単位） （cc：５,９,10,18,19,61,62,73）	10月28日㈰ 13：00～17：05 ＭＲＴ-micc	関節リウマチのトータルマネジメントと災害時リウマチ患者支援 日本リウマチ財団リウマチのケア研究委員会委員長・一番町リウマチクリニック顧問　山本　純己 リウマチ治療におけるリハビリテーションの役割 八幡総合病院整形外科・リハビリテーション科部長　原口　和史	◇共催 日本リウマチ財団 ※中外製薬㈱ ☎0985-20-8118
第75回宮崎市郡医師会心臓病研究会 （1.5単位） （cc：２,５,11）	11月６日㈫ 18：45～20：20 宮崎観光ホテル	末梢動脈疾患における血管内治療 大分岡病院副院長・心血管センター長　立川　洋一	◇共催 ※宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119 大塚製薬㈱
「皮膚の日」講演会 （1.5単位） （cc：１,２,９）	11月11日㈰ 14：00～15：30 宮日会館	石ケン（化粧品類），花粉類，ゴムを原因とする食物アレルギー －アレルギーを正しく知ろう－ 青木皮膚科　出盛　允啓	◇主催 宮崎県皮膚科医会 ◇共催 日本臨床皮膚科医会 ◇後援 厚生労働省 日本医師会 宮崎県医師会 ＮＨＫ （連絡先） 青木皮膚科 ☎0985-23-2011
第38回日本東洋医学会九州支部学術総会 （５単位） （cc：２,13,15,83）	11月25日㈰ ９：00～16：05 シーガイアコンベンションセンター 5,000円	重症・難治性疾患からみた漢方入門講座 －漢方医学の英知の紐解き方－ 熊本赤十字病院内科　加島　雅之 医学教育における漢方医学教育の歴史 宮崎大学医学部医学教育改革推進センター　林　克裕	◇主催 日本東洋医学会九州支部 ◇後援 宮崎県歯科医師会 宮崎県薬剤師会 宮崎県看護協会 （連絡先） 大森内科医院 ☎0983-22-0055

名　称	日時・場所・会費	演　題	その他 ※＝連絡先
宮崎県医師会産業医研修会(基礎研修の後期研修会,生涯研修の更新および専門研修会５単位) (５単位) (cc：1,3,4,7,8,9,11,38)	11月25日(日) 9：30～15：00 シーガイアコンベンションセンター	⑴総論 ⑴労働衛生関係法規と関係通達の改正 労働安全衛生法関係法令(仮) 労働局担当官 ⑺作業管理 危険有害物に関するリスク管理 福島県立医科大学衛生学・ 予防医学教授　福島　哲仁 ⑹作業環境管理 騒音難聴について(仮) 宮崎大学医学部公衆衛生学教授 黒田　嘉紀 ⑴総論 企業を元気にする産業医活動 日本ヘルスサイエンスセンター 代表　石川　雄一 ⑴総論 ⑴労働衛生関係法規と関係通達の改正 特殊健康診断等の改正について 産業医科大学医学部産業衛生学 教授　川本　俊弘	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
JPAP® 医療従事者向けプログラム Pain Academy™ 第25回ペインカンファレンス (３単位) (cc：1,5,10,80,81,84)	11月25日(日) 13：00～16：00 MRT-micc	がんの疼痛治療の実際－症例から学ぶ－ 宮崎大学医学部麻酔科　田中　信彦 古賀総合病院外科医長　菅瀬　隆信 和田病院緩和ケア内科医長 高橋　稔之 藤元早鈴病院緩和ケア・ 在宅療養科部長　馬見塚　勝郎	◇主催 ※Japan Partners Against Pain® ☎03-5759-6494

名　　称	日時・場所・会費	演　　題	その他 ※＝連絡先
第６回はまゆう整形外科セミナー （１単位） （cc：２，72）	12月８日㈯ 17：30～18：30 宮崎観光ホテル	整形外科医のための漢方医学（基礎） 宮崎大学医学部整形外科助教 濱田　浩朗 小児整形外科治療について 宮崎県立こども療育センター所長 柳園　賜一郎	◇主催 はまゆう整形外科セミナー （連絡先） 宮崎大学医学部整形外科 ☎ 0985-85-0986
第65回宮崎整形外科懇話会 （１単位） （cc：57，77）	12月22日㈯ 18：00～19：00 県医師会館 1,000円	高齢者の大腿骨近位部骨折の新分類と治療の注意点 公立玉名中央病院長・企業長 中野　哲雄	◇主催 宮崎整形外科懇話会 ◇共催 宮崎県整形外科医会 大日本住友製薬㈱ （連絡先） 宮崎大学医学部整形外科 ☎ 0985-85-0986

日本医師会生涯教育カリキュラム（2009）

カリキュラムコード（略称：cc）

1	専門職としての使命感	29	認知能の障害	57	外傷
2	継続的な学習と臨床能力の保持	30	頭痛	58	褥瘡
3	公平・公正な医療	31	めまい	59	背部痛
4	医療倫理	32	意識障害	60	腰痛
5	医師－患者関係とコミュニケーション	33	失神	61	関節痛
6	心理社会的アプローチ	34	言語障害	62	歩行障害
7	医療制度と法律	35	けいれん発作	63	四肢のしびれ
8	医療の質と安全	36	視力障害，視野狭窄	64	肉眼的血尿
9	医療情報	37	目の充血	65	排尿障害（尿失禁・排尿困難）
10	チーム医療	38	聴覚障害	66	乏尿・尿閉
11	予防活動	39	鼻漏・鼻閉	67	多尿
12	保健活動	40	鼻出血	68	精神科領域の救急
13	地域医療	41	嗄声	69	不安
14	医療と福祉の連携	42	胸痛	70	気分の障害（うつ）
15	臨床問題解決のプロセス	43	動悸	71	流・早産および満期産
16	ショック	44	心肺停止	72	成長・発達の障害
17	急性中毒	45	呼吸困難	73	慢性疾患・複合疾患の管理
18	全身倦怠感	46	咳・痰	74	高血圧症
19	身体機能の低下	47	誤嚥	75	脂質異常症
20	不眠	48	誤飲	76	糖尿病
21	食欲不振	49	嚥下困難	77	骨粗鬆症
22	体重減少・るい痩	50	吐血・下血	78	脳血管障害後遺症
23	体重増加・肥満	51	嘔気・嘔吐	79	気管支喘息
24	浮腫	52	胸やけ	80	在宅医療
25	リンパ節腫脹	53	腹痛	81	終末期のケア
26	発疹	54	便通異常（下痢・便秘）	82	生活習慣
27	黄疸	55	肛門・会陰部痛	83	相補・代替医療（漢方医療を含む）
28	発熱	56	熱傷	84	その他

診療メモ

眼内レンズUPDATE

宮田眼科病院　宮田和典（みやた かずのり）

眼内レンズの変遷：良好な矯正視力から良好な裸眼視力へ

水晶体が混濁し視力への障害をもたらす白内障に対しては，超音波乳化吸引（PEA）装置を使って水晶体を除去した後，水晶体嚢に人工の眼内レンズを挿入し，視力を回復する白内障手術が一般的である。今までは，眼鏡を使用して良好な視力，つまり，矯正視力1.0が見えることが治療の目標であった。しかし，現在では，生体測定方法の向上，計算式の開発等により，より良い裸眼視力を得ることが目標となっている。また，非球面眼内レンズ，トーリック眼内レンズ，多焦点眼内レンズといった高機能眼内レンズも開発，臨床応用され，視力の質の向上が得られている。

よりはっきりと見える非球面眼内レンズ

1990年代に天文学で使われていた補償光学技術を用いて，眼球の波面収差を測定することが可能となった。そして，2002年に白内障術後の球面収差を減少できる眼内レンズが開発されている。この非球面眼内レンズにより，“よりはっきり”とした視力を得ることが可能となった。特に，瞳孔が散瞳している状況，つまりやや暗い場所での視力の質は，非球面眼内レンズにより向上する。本邦では，2005年から臨床使用され，現在では多くの眼内レンズで採用されている[1]。この非球面眼内レンズが登場してから，白内障術後の裸眼視，および，視機能の重要性が医師と患者で認識されている。

乱視も矯正できるトーリック眼内レンズ

最近の検査技術と白内障手術を用いると，乱視がなく，眼疾患を持っていない患者に対しては手術後に良好な裸眼視力を得ることは難しくない。しかし，乱視がある場合は，乱視矯正用の眼鏡を使用するか，乱視矯正手術を受けないと良好な裸眼視力は得られない。当院の10万例の調査や，本邦の疫学調査報告[1]では，白内障手術患者の1/3以上が1.0D を超える角膜乱視を持っており，乱視への対策は避けられない問題である。この問題を解決する眼内レンズが，球面度数に加えて円柱度数を加入した「トーリック眼内レンズ」である[2]。

白内障術後に残る乱視は角膜に局在するが，この角膜の乱視（円柱レンズと等価）と直交する位置に，トーリック眼内レンズの円柱レンズを挿入し，角膜の乱視を打ち消す（図１）。現在使用可能なトーリック眼内レンズに加入されている円柱度数は，1.5，2.25，3.0，3.75，4.5，5.25，6.0D で1.0～4.0D の角膜乱視に対応可能である。

トーリック眼内レンズ使用には，術前の角膜乱視の適応検査と，手術時の眼内レンズの位置確認が必要となるが，それ以外は従来の白内障手術と同じである。トーリック眼内レンズを乱視軸に合わせて挿入することが重要となるが，我々は，角膜形状解析データに基づいた工夫を

開発し，正確な乱視矯正を行っている[3]。術前に顕著な乱視のために眼鏡が必要であった症例でも，術後に良好な裸眼視を得ることができる。

老視も矯正する多焦点眼内レンズ

眼内レンズを挿入すると，遠方視では良好な視機能を得ることはできる。しかし，水晶体がもっている調節力は失われるので，近方を見るためには眼鏡が必要である。白内障症例のほとんどは高齢であるため，すでに，加齢により調節力は小さい(老視)が，術後に眼鏡を使用しないで生活できる視力を提供する，遠近両用の眼内レンズも開発されている。焦点が遠近の二つ持っている眼内レンズが，「多焦点眼内レンズ」である[4]。多焦点を得る方法により，屈折型と回折型があるが，近年，本邦では後者が多く使用されている。

新世代の多焦点眼内レンズは，以前問題となっていたグレア，ハローが少なくなり，術後に良好な遠近裸眼視力を得ることが可能である。図2は，多焦点眼内レンズと従来の(単焦点)眼内レンズにおける，遠方矯正下での全距離視力の自験例である[5]。多焦点眼内レンズでは，良好な遠方視が得られれば，眼鏡なしに裸眼で近方視が得られる。しかし，中間距離での視力不足，コントラスト感度の低下等が問題となる場合がある。先進医療の治療であることを考慮し，症例の選択は慎重に行う必要があるが，眼鏡なしでも日常生活に支障のない裸眼視力が得られている選択肢として注目されている。

参考文献

0）宮田和典．最近の眼内レンズ：非球面眼内レンズについて．あたらしい眼科 23：441-445，2006

1）三宅 俊之，神谷 和孝，天野 理恵ほか：白内障手術前の角膜乱視．日眼会誌 115：447-453，2011

2）ビッセン宮島弘子編：トーリック眼内レンズ．南山堂，東京，2010

3）Miyata K，Miyai T，Minami K et al：Limbal relaxing incision using a reference point and corneal topography for intraoperative identification of the steepest meridian．J Refract Surg．27：339-344，2011

4）ビッセン宮島弘子：多焦点眼内レンズ．エルゼビア・ジャパン，東京，2008

5）片岡康志，大谷伸一郎，加賀谷文絵ほか：回折型多焦点眼内レンズ挿入眼の視機能に対する検討．眼科手術 23：277-281，2010

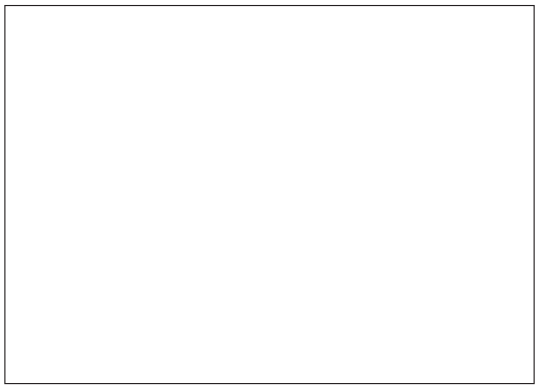


図1．乱視矯正眼内レンズ(ＴＬ)と角膜乱視の強主経線を直交させて，乱視を低減。

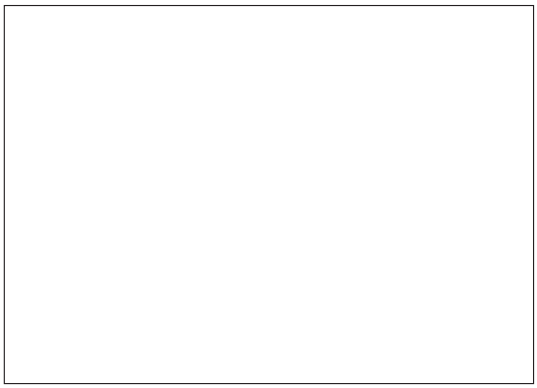


図2．多焦点眼内レンズと単焦点眼内レンズの全距離における視力の結果(遠方矯正下)

宮大医学部学生のページ

〔宮崎大学学園祭〕第８回清花祭　～喜奏天凱（きそうてんがい）～

[会場]　宮崎大学　清武キャンパス・木花キャンパス
[日時]　平成 24年 11月 17日(土)・ 18日(日)

今年も上記のとおり学園祭を行うことが決定いたしましたのでお知らせします。今年のスローガンは『喜奏天凱』です。清花祭で大空に響きわたるような喜びを全員で奏でようという意味で，奇想天外という四字熟語の元々の意味も含めて宮大生の豊かな創造力と表現力を表しています。

イベント・企画内容を一部ですが，ご紹介します。

◎みこし企画

今年の清花祭も，前日（11月 16日）に神輿パレードを行います。午後１時から栄町街区公園を出発し，デパートの前や県庁の前など，宮崎駅周辺を練り歩きます。今年も大学内の各団体が英知の限りを尽くしたユニークな神輿をたくさん御覧になることが出来ます。お時間のある方は是非，足を運んでください。

◎お医者さん・看護師さんになってみよう

医師や看護師が現場で行う検査や患者さんの介護などを，企画員の誘導のもとで実際にやっていただき，医師や看護師の視点・立場から医療を見てもらおうというものです。AED や血圧測定，車椅子体験，アルコールパッチテストなど，ぜひ体験してみてください。

◎年齢企画

脳年齢・肌年齢・血管年齢・体力年齢をゲーム感覚で測定していただき，年齢を窓口にして自身の健康に興味・関心を持っていただくことが目的の企画です。

◎ Café de aroma

メディカルアロマセラピーに関する展示，アロマオイルを使ったハンドマッサージ，ハーブティー・お菓子の提供などを通して，“ 人を癒す ”ということについて考えようという企画です。ぜひ，癒しの時をご堪能ください。

◎患者さんの気持ち　看護師さんの気持ち　お医者さんの気持ち

今年で 14年目となる本企画では，患者・看護師・医師など医療に関わる多くの人々の『本当は伝えたかったけれど伝えられなかった思い』を募集し，集まった作品を作品集として冊子にまとめ，清花祭当日に無料配布します。また，作品の一部を清書し，清花祭当日に展示します。さらに今年は，地域の小児医療をテーマにした活動も行っております。

医療に関わる人々の相互理解を深めることを目指した本企画をよろしくお願い致します。

◎こども企画

学祭に遊びに来てくれた子どもたちを招待して，ミニ運動会を開催します。玉入れや風船運びリレーなどのゲームを通して，地域の子どもたちとの交流を深める楽しい企画です。医学部を身近に感じてもらえたら嬉しく思います。

宮崎大学清花祭医学部特別講演会

宮崎から世界へ～故郷と共に歩んだ軌跡～

松田丈志　氏

宮崎県延岡市出身の水泳選手。今年のロンドンオリンピック競泳日本代表の主将を務め個人バタフライ200メートルで銅メダル・メドレーリレーで銀メダルを獲得し，その他にも多くの世界大会で輝かしい成績を収めた日本を代表する水泳選手です。

講演では厳しい練習環境から世界へと上り詰めた道のり，オリンピックという舞台，努力の大切さなどを自身の経験を基に語っていただきます。

日　時　　2012年11月11日(日)
　　開場12：00　開演13：00
会　場　　清武町文化会館　半九ホール
主　催　　宮崎大学清花祭清武キャンパス
　　実行委員会
共　催　　清武町文化会館
後　援　　宮崎市教育委員会，宮崎日日新聞社
　　ＭＲＴ宮崎放送，宮崎大学医学部後援会
入場料　　無料

〈応募方法〉

住所・氏名・年齢・電話番号・観覧希望人数をご明記の上，下記のいずれかの方法でお申し込みください。チケットをご住所まで送付いたします。

①はがき：〒889-1601 宮崎県宮崎市清武町木原5200　清花祭実行委員会
②清花祭公式ホームページ：ＰＣ用　http：//kiyokasai.com /
　　携帯用　http：//kiyokasai.com /m /

なお，応募多数の場合は先着順とさせていただき，発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

【お問い合わせ】

宮崎大学清花祭特別講演会企画
企画責任者　永澤　☎ 080-5374-5880
✉ adamus_s_s@yahoo.co.jp

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。詳細につきましては，会員専用ページをご覧いただくか，所属郡市医師会へお問い合わせください。また，ＭＭＡ通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時ご案内しておりますので，まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

会員専用ページへのアクセス方法

宮崎県医師会（http：//ｗｗｗ．miyazaki-med.or.jp／）にアクセス
県医師会ホームページ右下の「会員専用ページ」をクリック
ユーザー名：医籍登録番号を入力
パスワード：生年月日（西暦の下二桁と月日）を入力（初期設定）
例） 1950年11月2日生まれの場合， 501102

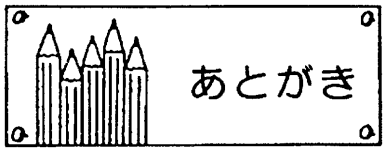
※ＭＭＡ通信への登録をご希望の方は，県医師会地域医療課までご連絡ください（ＴＥＬ　0985-22-5118）。

送付日	文　　書　　名
8月29日	・コンタクトレンズの適正使用に関する情報提供等の徹底について(通知) ・臍帯血移植の安全性の確保について
8月30日	・平成24年介護サービス施設・事業所調査の実施に関する協力依頼について ・特別児童扶養手当等の支給に関する法律施行令別表第3における障害の認定要領の一部改正について ・福島県外に避難された福島県民に対する健康管理調査「健康診査」に対する協力について(依頼)
8月31日	・定期の予防接種による事故の防止について(通知)
9月3日	・日本医師会認定健康スポーツ医制度実施要領の改定について
9月4日	・乳幼児医療費助成制度の年齢拡充について(依頼) ・社会福祉施設等における食中毒予防及び衛生管理の徹底について(通知) ・不活化ポリオワクチンの導入に関する母子健康手帳の記載事項の取扱いについて ・不活化ポリオワクチンの安定供給について ・厚生労働省主催「平成24年度新型インフルエンザの診療に関する研修」の開催について ・宮崎県地域がん登録の実施について(依頼)
9月7日	・精神病床に係る基準病床数の算定に使用する数値等の一部改正等について ・医師法第20条ただし書の適切な運用について(通知)

送付日	文　書　名
9月 11日	・麻しんの予防接種の徹底等について（依頼）
9月 12日	・県単独医療費助成事業に係る審査支払業務の委託について（通知） ・労働契約法の一部改正について ・医師法第 20条ただし書の適切な運用について ・第 21回日本医師会主催「指導医のための教育ワークショップ」（平成 25年 1月 26日～ 27日）の開催について
9月 13日	・介護サービス情報の公表制度の見直しおよび新システムの実施について
9月 18日	・「予防接種ガイドライン 2012年度版」，「予防接種と子どもの健康 2012年度版」の改訂について ・小児がん拠点病院の整備について
9月 19日	・「院内感染対策サーベイランス」に係る参加医療機関の募集について ・医療法施行規則別表第一の規定に基づく病院，診療所又は助産所の管理者が都道府県知事に報告しなければならない事項として医療法施行規則別表第一に掲げる事項のうち，厚生労働大臣の定めるものの一部改正について ・医療関係職種の医療機関採用時における免許証原本の確認について ・「医療機関等における個人情報の取扱い等に関するアンケート調査」への協力依頼について ・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について
9月 20日	・厚生労働省が行う「看護師特定能力認証制度」に関する意見募集について

あなたできますか？（解答）

1	2	3	4	5	6	7	8	9
e	d	d，e	d	e	a	d	a	c，d



ベビーブーム到来。といっても私の勤務する新城眼科の話です。少子化の原因の一つに保育所の不足があげられていますが，新城眼科では1980年から院内に保育所を設置しています(設置の動機は少子化対策とは無関係だったようですが…)。４歳の誕生日を迎える年に卒園としていますが(集団生活に慣れるため，小学校入学前年は地元の保育園や幼稚園に通います)，過去の卒園児は計73名に上ります。一期生はすでに32歳となり，その子どもが入園したため，親子二代で通う，ちょっとした伝統校？といったところでしょうか。過去，園児が一番多かったのは1997年の20名でしたが，今年は第二次ベビーブームで11名(０歳児：２名，一歳児：３名，二歳児：３名，三歳児：３名)の子どもがおり，今後さらに０歳児が４名増える予定です。院内に保育所があると親にとってはかなり便利なようで，「早期の仕事復帰が可能」，「仕事の合間に母乳をあげられる(授乳の合間に仕事？)」，「子どもが体調を崩した時，すぐに駆けつけられる(親が近くにいるという安心感)」，「送り迎えの必要がないので時間に余裕がある」，「季節の行事や誕生日会に，もれなく参加できる」，といった声が聞かれます。人口は国力の重要な要素の一つですが，日本では第一次オイルショック後の1975年に出生率が２を下回って以降，人口置換水準は回復せず少子化状態となっています。現在，様々な理由で子育てがむずかしくなってきており，社会全体での子育て支援が必要です。従業員が子育てをしながら安心して働くことができる雇用環境を整備していくことが我々の責務ではないでしょうか。　(沖田)

＊　＊　＊　＊　＊

元来サプリメントに嫌悪感を抱いてきました小生，やたらとサプリメントに頼りたがる患者さんをことごとく診療で叱責してきました。ところがどうしたことでしょう。つい先日の民放番組で，遠視や視力回復の対策としてアントシアニンの効果が紹介されるや否や，番組終了後にはアントシアニン含有錠剤を早速ネット購入しておりました。現在愛用しておりますが，果たしてその効果はいかに？もう患者を叱ったりはできません。　(黒川)

＊　＊　＊

先日，ひょんなことからJAXAの方と知り合いになり，宮崎科学技術館での講演の前日に食事をご一緒する機会がありました。その方は有機廃棄物から水をつくる研究をされています。水は酸素などの気体と違い，圧縮できないために宇宙へ持っていくのにコストや重量，容積の面で最も厄介とのことでした。時間があれば愛車に実験道具を積み込んで日本中走り回って講演されているようです。普段は医療関係者以外の人とはお話しする機会がめったにないので非常に楽しく，興味深く，また有意義な時間が過ごせました。　(釜付)

＊　＊　＊

ここ最近、夜間は少しだけ肌寒くなってきました。いつまでも夏の気分を引きずって半袖上下で過ごしていたら、案の定親子ともども風邪を引き、広報委員会の方々にも迷惑を掛けている始末です。秋の空は澄み渡って、10月にもなると朝の空気にドキッとします。まるで小学校時代の運動会の徒競走直前の気持ちになります。「これから冬が来ますよー」と。寒いのが嫌いな私にとってはピストルの「パンッ」という警告音のようです。　(大野)

＊　＊　＊

先日，横浜で行われた「日本整形外科スポーツ医学会学術集会」にて，学生発表をさせていただきました。全国からスポーツドクターやコメディカルの方々が一堂に集まるその光景は，圧巻で，その規模の大きさに完全に飲まれてしまいました。初めて学生発表を通して多くのことを学ぶ一方で，将来はこのような大きな学会で堂々と発表してみたいと，強く憧れた学会でした。帖佐先生をはじめとする宮崎大学整形外科の先生方，このような機会を与えていただきありがとうございました!!　(前田)

＊　＊　＊

11月17日，18日に宮崎大学の学園祭(清花祭)が開催されます。医学科は清花祭の幹部学年が４年のため，４年の私は清花祭の準備を行う日々です。私が企画長を務めさせて頂いているのは，今月号の日州医事で御紹介させて頂いた「患者さんの気持ち 看護師さんの気持ち お医者さんの気持ち」という企画です。今年は昨年までと冊子の内容を大きく変えるためプレッシャーも感じますが，お忙しい中，御協力頂いた方々の思いを多くの人々に届けるためにも頑張ります。　(陣門)

＊　＊　＊

「待合室などにおいて，市販のDVD，ビデオを上映していませんか？」日医白クマ通信でも注意喚起がありましたが，市販のDVD等を待合室などで上映することは法律違反です。また，NHK・民放・ラジオをリアルタイムで流すことは問題ありませんが，それらを自宅で録画し，待合室で流すことも著作権法上問題となります。平成18年に法改正が行われ，著作権侵害の刑事罰が強化(法人は３億円以下の罰金，行為者は10年以下の懲役１千万円以下の罰金)されていますので，ご注意を！　(荒木)

＊　＊　＊

今月のトピックス

日州医談　「新・自殺総合対策大綱」について

宮崎県の自殺者数は全国でも高い水準にあり，平成19年は全国でワースト２位です。宮崎県の対策でその後は減少傾向でしたが，平成23年には再びワースト４位と増加しています。そのような状況の中で今年８月に自殺総合対策大綱が５年ぶりに見直され，閣議決定されました。新大綱の全体像と見直しのポイントを，吉田建世常任理事がその実効力と成果を期待しつつ解説してくださいました。　４ページ

寄稿　宮崎市郡医師会病院心臓病センターとモービルＣＣＵ

モービルＣＣＵ（mobile coronary care unit）とは，専用機材を積載し専門医と看護師が同乗することにより，重症心疾患患者の速やかな治療と処置を可能とした「心臓病専用救急車」です。今年の８月23日に納車され，スタッフの乗務訓練期間を経て10月１日から24時間365日！の運行を開始しました。宮崎大学医学部附属病院のドクターヘリと共に，宮崎県救急医療体制の充実に大いに寄与するものと期待されます。６ページ

診療メモ　眼内レンズUPDATE

白内障治療においては，これまで眼鏡を使用して良好な視力（矯正視力1.0）を得ることが目標でしたが，現在は眼内レンズによる良好な裸眼視力を得ることが目標となっています。眼内レンズの歴史を紐解きながら，新たな測定法や計算式の開発により進歩した様々な種類の眼内レンズを，視力の質の向上をテーマに宮田和典先生が解説，紹介してくださいました。　56ページ

日　州　医　事　第758号（平成24年10月号）（毎月１回10日発行）
発行人　公益社団法人　宮　崎　県　医　師　会
〒880-0023　宮崎市和知川原１丁目101番地　TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
http://www.miyazakimed.or.jp/　E-mail:office@miyazakimed.or.jp
代表者　稲　倉　正　孝
編　集　宮崎県医師会広報委員会
委　員　長　尾田　朋樹・副委員長　上野　　満，黒川　基樹
委　　員　篠原　立大，姫路　大輔，薮内　悠貴，湯淺美紗子
釜付　弘志，沖田　和久，大野　妙子，前田　雄洋，陣門　洋平
担当副会長　富田　雄二・担当理事　青木　洋子，荒木　早苗
事　務　局　学術広報課　喜入　美香，杉田　秀博
印刷所　有限会社 ケイ・プロデュース●落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。
定　価　350円（但し，県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります）